

2025年12月作成

(2025年9月末基準)

対象ファンド
【アロケーション・その他】

 **MUFG** 三菱UFJアセットマネジメント株式会社

プロダクトガバナンスレポート

公募ファンドの運用について



● ごあいさつ	2
---------	---

● 会社体制(会社情報・各種ガバナンス体制)

経営ビジョン／プロダクトガバナンス・ポリシー	3
コーポレートガバナンス体制	4
純資産総額／会社収益	5
運用哲学／運用体制	6
開示・情報提供に関する取り組み	7
バリューマネジメント活動	8
ファンド提供価値の評価・改善対応フロー	9

● カテゴリごとのファンド運用状況

当レポートでご報告するファンドについて	10
01 アロケーション・安定型	11
02 アロケーション・やや安定型	14
03 アロケーション・標準型	16
04 アロケーション・やや積極型	18
05 アロケーション・積極型	20
06 アロケーション・TAA型	23
07 アロケーション・ターゲットイヤー型(2030年以前)	26
08 アロケーション・ターゲットイヤー型(2031年-2040年)	27
09 アロケーション・ターゲットイヤー型(2041年-2050年)	28
10 アロケーション・ターゲットイヤー型(2051年-2060年)	29
11 アロケーション・ターゲットイヤー型(2061年以降)	30
12 コモディティ	31
13 オルタナティブ・ロングショート型	32
14 オルタナティブ・マーケットニュートラル型	34
15 オルタナティブ・マルチストラテジー型	35



ごあいさつ

私たちの経営ビジョン「あなたと社会」の豊かな未来に貢献する”には、お客さまの資産形成・資産運用に貢献したい、持続可能な社会の実現に貢献したい、という想いを込めています。

私たちは、当社が果たすべきフィデューシャリー・デューティーを常に探求していく不断の取り組みこそが、“お客さまの資産形成・資産運用や持続可能な社会の実現に貢献する”ことに繋がるとの考えから、フィデューシャリー・デューティーを当社役職員に求められる思考様式・行動様式として位置づけ、全役職員でこれに取り組んでいます。

商品・サービスの更なる向上に向けた取り組みの進捗状況や、社員研修によるお客さま本位の姿勢の定着度合いなどをモニタリングするため、フィデューシャリー・デューティー推進委員会を定期的で開催しています。

また、当社では取締役会傘下にフィデューシャリー・デューティー/プロダクトガバナンス諮問会議を設置しており、本諮問会議を社外取締役主体の会議体とすることで、監督的な視点を強化し、プロダクトガバナンスだけでなくフィデューシャリー・デューティーの取組状況のモニタリング等にまでテーマを拡げることにより、お客さま本位の業務運営やプロダクトガバナンスに関する取り組みの更なる深化を進めております。

当レポートは、当社のプロダクトガバナンス態勢についてご説明することに加えて、プロダクトガバナンスの視点で、当社が設定・運用する公募ファンドについて、お客さまにコストに見合うリターンを提供できているか、商品性に合致した運用が継続可能か等を定期的に検証し、個別ファンドごとに品質管理を行った結果をご報告させていただくものです。

お客さまや社会が求める未来は、価値観や時代などに応じて変化しますが、私たちは、いつの時代も資産運用を通じてより良い未来づくりにアセットマネジメント会社として貢献してまいりたいと考えております。

引き続き、三菱UFJアセットマネジメントをご愛顧賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

取締役社長
横川 直



経営ビジョン／プロダクトガバナンス・ポリシー

当社が投資信託を通じ、お客さまの大切なご資金をお預かりするという役割の重要性と、社会に果たすべき責任を踏まえ、当社の“社会における存在意義”を定義した「経営ビジョン」を定めています。経営ビジョンを企業活動の拠り所としながら、特に投資信託をご活用いただくお客さまの目線に立った商品・サービスの提供・品質向上に向けて重視する事項を「プロダクトガバナンス*・ポリシー」として定め、お客さま本位の業務運営に取り組んでいます。

*「プロダクトガバナンス」とは、お客さまへ良質な商品（プロダクト）・サービスを提供するために、商品の組成・運用において適切な運営・モニタリング・品質管理を行うことを指します。

経営ビジョン

社会においてこうありたいという第三者的な視点に立ち、資産運用を社会インフラのひとつとして根付かせ、資産運用の拡大と共に成長していくとの想いを経営ビジョンとして策定しています。

「あなた」と「社会」の豊かな未来に貢献する

わたしたちは、資産運用を通じて「あなた」と「社会」をつなぎ、より良い未来に貢献します。

三菱UFJアセットマネジメントは、プロフェッショナルとして、お客さまの大切なご資金を運用する資産運用会社です。わたしたちの「経営ビジョン」には、お客さまの資産形成・資産運用に貢献したい、持続可能な社会の実現に貢献したい、という想いが込められています。

プロダクトガバナンス・ポリシー

プロダクトガバナンスにおいて、お客さまの目線を重視する考え方のもと、大切にしていること、重視していることを「商品性」「運用管理」「開示」の3つの側面からポリシーとして制定し、更なる品質向上に取り組んでいます。



商品性

現在および将来、当社の投資信託を保有いただくお客さまのニーズに沿った最適な商品の組成・提供を目指します

- 提供価値（ファンドの目的・特色）の明確化



運用管理

お客さまにご負担いただくコストに見合うリターンを確保できているかモニタリングすることにより、投資信託を通じた提供価値の維持を目指します

- 信託報酬（運用管理費用）等控除後の運用成果のモニタリングを徹底
- 運用成果の追求に向けた取組みの徹底
- ファンドの目的・特色が十分提供できていない場合、適時適切に対応



開示

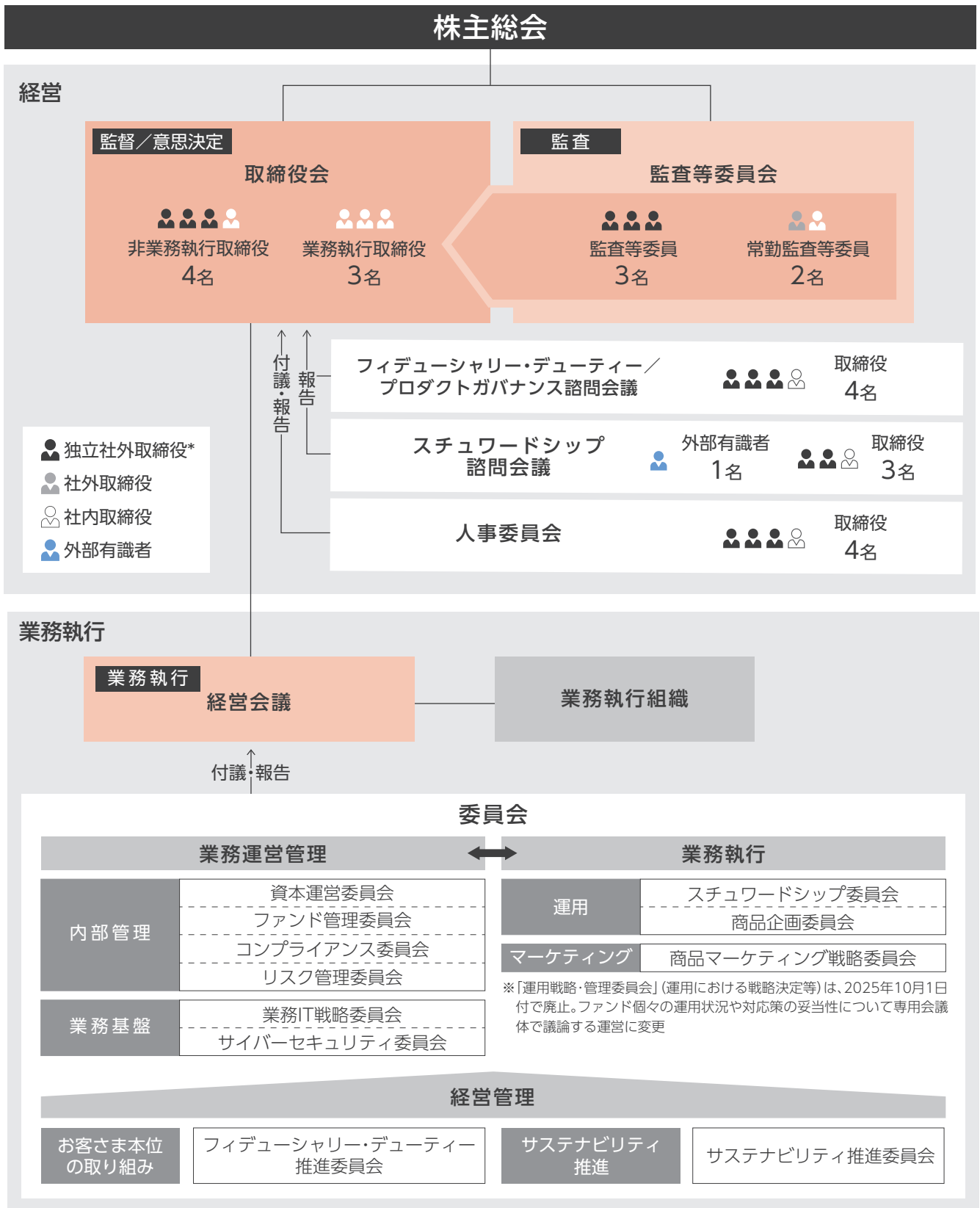
お客さまの投資判断に必要な情報をご理解いただきやすく提供することを目指します

- 正確な情報をわかりやすく提供
- 様々な手段・方法で、タイムリーに情報を提供

コーポレートガバナンス体制

適切なプロダクトガバナンスには、適切なコーポレートガバナンス体制が必須条件と考えております。当社では経営の監督・意思決定を行う取締役会と、それを監査する監査等委員会のもと、経営会議傘下で業務執行に当たっています。外部目線の導入が特に必要と考える会議体には、社外取締役・外部有識者に参加いただき、コーポレートガバナンスの高度化に努めています。

2025年10月末 現在

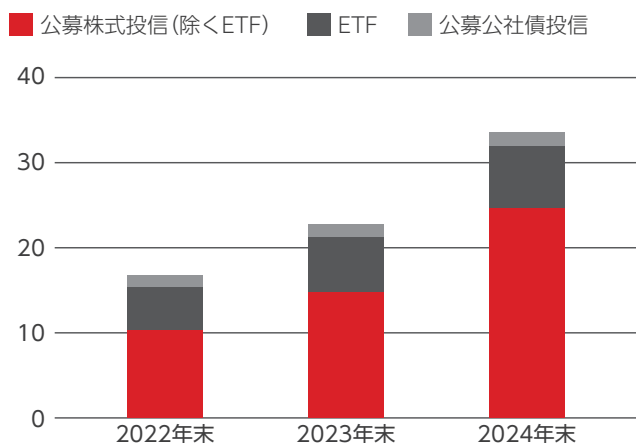


(*) 当社で定める「社外取締役の独立性判断基準」に基づき当社から独立性を有している社外取締役

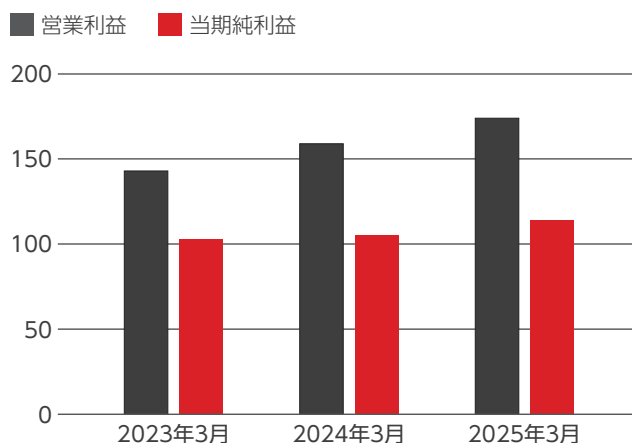
純資産総額／会社収益

ファンド運営の前提となる会社の継続性に関しまして、当社ファンドへのお客さまからのご支持に加えて資産運用の浸透・拡大も受け、2024年末時点の当社公募投資信託純資産総額は33.5兆円となりました。また、収益状況は安定的に推移しております。

当社公募投資信託純資産総額の推移 (兆円)



当社収益状況の推移 (億円)



TOPICS

●フィデューシャリー・デューティー／プロダクトガバナンス (FD/PG) 諮問会議 運営状況

フィデューシャリー・デューティー (お客さま本位の業務運営) とプロダクトガバナンス (商品の組成・運用に対する適切な運営・モニタリング・品質管理) に係る取り組みの監督機能強化のため、取締役会傘下へ「FD/PG諮問会議」を設置・運営 (2024年8月～) しております。本諮問会議は、監督的な視点の下で各種テーマに関する取り組みの更なる深化を図ることを目的としています。

2025年度は、10月までにプロダクトガバナンスをテーマに2回 (2025年4月、10月) 開催し、下記内容等について社外取締役に意見聴取を行い、今後更に注力していくべき事項や、課題の確認などを行っています。

●本諮問会議で取り扱ったプロダクトガバナンスに係るテーマ (抜粋)

【バリューマネジメント活動*の浸透・強化】

- 提供価値の維持に向け、異常を早期に検知し対応する社内体制の整備・運営状況など

*詳細はP8参照

- 運用及び商品開発の現場と、監督側の両者によるモニタリング体制が定まり安定稼働
- パフォーマンス改善対応中の各ファンドの個別性に依じた対応方針について議論

【運用関連情報の発信強化・拡充】

- お客さまの投資判断や当社運用体制への理解の一助となることを目的に、運用関連の開示情報を強化・拡充する方針・検討状況について

- 運用担当者からのダイレクトな情報発信をめざすと共に、運用に係る情報を集約した特設サイトの開設など、検討中の対応方針について議論

【プログレスレポートで示された着眼点への対応】

- 金融庁が発行した「プログレスレポート」にて示された着眼点ごとに紹介されている「工夫がみられる事例」、「課題と考えられる事例」を参考とした検討状況など

- 課題と考えられる事例について当社の考え方・改善を要するポイントなどをまとめ、外部視点から見た対応の妥当性や潜在課題の有無を議論

運用哲学／運用体制

当社の運用プロフェッショナルが、付加価値の創造、的確なリスク管理、規律ある運用プロセスなどの運用哲学に基づき、投資いただいているお客さまに最良の投資成果をお届けできるように努めています。運用部門では、お客さまに良質な商品を継続的に提供すべく、組織的かつ各運用者が高いオーナーシップを発揮する運用体制を構築し、サステナブル投資の観点からも社会課題解決に資するスチュワードシップ活動に取り組んでおります。また、株式や債券のような伝統的資産からの運用ニーズの多様化が進む中、証券化商品などクレジット領域を担うクレジット運用部の昨年の設立に続き、プライベートアセット領域を担うプライベートアセット運用部を新設(2025年7月1日付)しており、運用のケイパビリティ拡充を推進しております。お客さまにご満足いただける投資成果を安定的かつ継続的に提供することを目指しています。

運用哲学

01 付加価値の創造

最良の運用成果を得るためには、徹底した調査・分析と適切な運用判断による付加価値の創造が必要です。私たちは、徹底した情報収集、詳細な分析、適切な判断を通じて付加価値の獲得を目指します。

02 的確なリスク管理

運用においては、意図したリスクを取り、意図しないリスクを排除することが必要です。私たちは、的確なリスク管理を実践し、効率的に付加価値の獲得を目指します。

03 規律ある運用プロセス

規律と一貫性のあるプロセスが、運用の質的向上につながります。私たちは、チームワークを重視し、かつ「Plan→Do→See」に裏打ちされた規律あるプロセスによって、運用の一貫性を確保します。

04 適切な情報開示

お客さまに信頼していただきながら、ご期待に沿った資産運用を行うためには、情報の開示が不可欠です。私たちは、運用の状況と運用に対する考え方を適切にお伝えすることにより、お客さまの信頼獲得を目指します。

運用体制

(2025年10月末現在)

運用部門					
部門長 高鍋 朗 運用経験年数 32年		副部門長 大久保 隆 運用経験年数 7年			
運用部	運用責任者 (運用経験年数)	運用対象	FM人員 (運用経験年数)	担当運用資産 (十億円)	
運用 担当	戦略運用部	加納 良樹 (29年)	主としてバランス型ファンド・計量的手法等を利用したファンドの運用	19名 (平均12年)	517
	株式運用部	森 博 (28年)	主として内外株式の運用	42名 (平均18年)	1,526
	債券運用第一部	氏原 圭作 (36年)	主として内外債券の運用	9名 (平均22年)	490
	債券運用第二部	古田 憲司 (28年)	主として内外債券の運用	23名 (平均13年)	3,062
	クレジット運用部	永田 幸佐 (17年)	主としてクレジット関連商品の運用	6名 (平均6年)	5,392
	インデックス運用部	荻野 太陽 (18年)	主として全資産のインデックス運用	25名 (平均8年)	40,536
	外部委託運用部	笹井 泰夫 (29年)	主として外部運用会社との提携ファンドの運用	38名 (平均8年)	8,172
運用企画部	運用に関する施策企画、運用モニタリングおよびファンドマネジャーのパフォーマンス評価				
サステナブル投資推進部	サステナブル投資に関する業務および施策企画				
プライベートアセット運用部	主としてプライベートアセットの運用・企画・調査				
トレーディング部	有価証券等の発注およびファンド余資運用				
商品開発部	商品開発に関する企画立案、投資信託等に関わる商品開発および分配金・償還・品質維持・品質改善管理、商品関連契約				

*国内籍の公募および私募投信、投資一任・投資助言を対象に集計。助言は投資助言の内容・範囲等にかかわらず、顧客資産の額(契約簿価)を前提とした契約を集計。プライベートアセット運用部は現状自社資金による運用のみであり上記対象からは割愛。

開示・情報提供に関する取り組み

プロダクトガバナンス・ポリシーに基づき、お客さまの投資判断に必要な情報をご理解いただきやすく提供することを目指して、各種開示・情報提供に取り組んでおります。個別ファンドの運用状況に関する定期的・日常的な情報提供について、適時・適切な実施に努めているほか、開示・情報提供に関する、全社的あるいはファンドを横断した高度化・拡充についても取り組みを進めております。当ページではそれらの取り組みの一例をご紹介します。

取り組み事例 当社が考える各商品の購入を想定するお客さま

- 2025年3月、ホームページへ、当社が考える各商品の購入を想定するお客さまに関する情報の掲載を開始しました。
- 商品に、商品理解の難易度などに基づいたランクを付与し、その商品の購入を想定するお客さまを、投資経験や投資知識の観点から4つに分けてご案内しており、これにより、お客さまの商品選びのお手伝いができるものと考えています。
- なお、当社が主に、投資経験および投資知識が十分にあるお客さまの購入を想定している、商品リスクのランクが高いと考える商品については、対象商品のリストを併せて掲載し、ご判断の参考となるようにしています。

当社が考える、各商品の購入を想定するお客さまについて

商品を組成する三菱UFJアセットマネジメントでは、商品理解の難易度などに基づいて分類した商品リスクランク（詳細後述）に応じて、その商品の購入を想定するお客さまを、投資経験や投資知識の観点から4つに分けてご案内しております。

具体的には、「A. 投資経験がない方」「B. 投資経験がないが投資知識※により購入される方」「C. 投資経験がある方、または投資知識がある方」「D. 投資経験および投資知識が十分にある方」の4つになります。

※ 投資知識とはつみたて投資などによる購入を想定しています。

下記の図にて、各商品リスクランクの中心のついている箇所にはお客さまが、当社がその商品の購入を想定しているお客さまになります。

なお、当社は、主に通貨選別型（対象資産と通貨コースが異なるもの）などの商品理解の難易度が相対的に高いと考えられる商品などを、商品リスクランク「3」としています。

●赤線は、リスクランク「3」のファンドが想定するお客さまの発方を表しています。

ご参考：商品リスクランクについて

商品リスクランクは当社が価格変動リスクおよび商品理解の難易度から判定しております。各商品リスクランクのイメージは以下の通りです。

商品リスクランク「1」

変動性が低く安定で、かつ、投資家が新聞（一般紙）を読むことなどにより、補足説明がなくても商品性が概ね理解できると考えるファンド。主に、国内債券、先進国債券（為替ヘッジ付き）などを投資対象とするファンドです。

商品リスクランク「2」

変動性が一般的なリスク資産（株、為替）と同程度で、自己の知識と、資料等の補足情報を得ることにより商品性が理解できると考えるファンド。商品リスクランク「1」または「3」以外の商品になります。

商品リスクランク「3」

変動性が相対的に高いと判断され、販売員からの補足説明を得ることにより商品性が理解できると考えるファンド。主に通貨選別型（対象資産と通貨コースが異なるもの）や、レバレッジ取引（先物取引等を利用し、投資金額の数倍の取引を行うこと）を行うファンドなどが該当します。

当社が主に、投資経験および投資知識が十分にあるお客さま（区分D）の購入を想定している、商品リスクランク「3」の主なファンドは以下の通りです。

投資経験または投資知識が十分ではないとお考えのお客さまは、ご購入には、慎重なご判断が必要（ご購入に適さない可能性）がある）と考えております。

各商品の購入を想定するお客さまに関する情報
<https://www.am.mufg.jp/corp/policy/matrix.html>

取り組み事例 当社公式SNSアカウント等を通じたタイムリーな情報発信

- 当社では、各種公式SNSアカウント等を通じた投資信託や投資関連情報等のタイムリーな情報発信に努めています。
- 例えば、2025年4月の株式市況の下落局面では「足元の相場変動を受けて皆さまへのメッセージ」や当社エコノミストによる解説動画を発信するなど、投資家の皆さまの長期投資の一助となるような情報発信に努めています。



投信オンエア
 投資関連情報をサクッとお届け♪



eMAXIS LINE
 「eMAXIS」の関連情報をお届け！



X
 投資関連情報をポスト中！



オルカンカフェ
 長期投資を実践するみんなのコミュニティ♪

※eMAXISシリーズのリスクと費用については[こちら](#)をご確認ください。
 ※eMAXIS Slim 全世界株式（オルカン・カントリー）（愛称：オルカン）の[リスク・費用](#)
 ※「オルカン」は当社の登録商標です。

バリューマネジメント活動

プロダクトガバナンス・ポリシーに基づき、ファンド提供価値の維持・向上へ継続的に取り組んでいます(バリューマネジメント活動)。運用・商品担当部署においてはファンドの各種運営とともに、ファンドの品質管理・改善を自律的に行っております。それに加え、バリューマネジメント統括部署においてファンド提供価値の評価を行い、必要に応じて運用あるいは商品性の改善を促すなど、お客さまの信頼に応える商品提供を心掛けております。

お客さまの信頼に応える商品提供

バリューマネジメント活動 (ファンド提供価値の維持・向上への取り組み)

運用・商品担当部署による 自律的な品質管理

運用状況のモニタリング・
商品性の確認



日常的な品質改善

バリューマネジメント統括部署が 指揮する組織的な品質管理

ファンド提供価値の評価



要改善ファンドの改善*・
フォローアップ

*改善策の立案・実行はバリューマネジメント統括部署からの指示に基づき、運用・商品担当部署が行います。



ファンド提供価値の評価・改善対応フロー

当社が設定・運用する公募ファンド(MRF、単位型を除く)を対象に、ファンド提供価値の評価を行います。その結果、運用や商品性に改善を要すると考えられるファンド(要改善ファンド)については改善策を策定します。ファンド提供価値の評価・改善対応は以下のフローに基づいて行っており、当レポートでは、評価結果および改善対応の状況についてご報告いたします。

STEP 01 パフォーマンス評価

- 当社が設定・運用する公募ファンド(MRF、単位型を除く)について、コスト控除後のリターン*¹を用いて、当社ファンドと同じカテゴリ*²に所属する競合他社ファンドのなかでの相対的な順位を確認します。
- 競合他社ファンドとの比較は5年、10年、設定来などの複数期間*³で行います。

*1 お客さまにご負担いただくコストに見合うリターンを確保できているか確認するため、分配金再投資換算の基準価額を使って信託報酬(運用管理費用)等控除後のリターンを算出します。

*2 恣意性を排除するため、外部評価機関であるMorningstarによるモーニングスター・カテゴリを使用します。モーニングスター・カテゴリに関する著作権、知的財産権等一切の権利はMorningstarに帰属し、複製、転載、引用することを禁じます。

*3 インデックスファンドについては、特定指数と同じ値動きを目指す商品性であること等から、対象指数との期間1年の連動性も含めて評価します。

STEP 02 ファンド提供価値の評価

- STEP1のパフォーマンス評価において、パフォーマンスの相対順位が一定水準以下となる競合他社比で劣後しているファンドについて、多角的な視点からより詳細な分析を行います。
- パフォーマンスの要因やコスト対比リターン、商品性などの分析を行い、お客さまにご負担いただいたコストに見合うリターンが提供できているか、商品性に合致した運用が継続可能かなどの観点からファンド提供価値を評価します。

STEP 03 要改善ファンドの特定・改善策の検討

- STEP2の分析により、運用や商品性に改善すべき課題が特定された場合には、ファンド提供価値の向上を目的として、当該課題を解決すべく改善策を検討します。

STEP 04 要改善ファンドのフォローアップ

- STEP3で策定した改善策が効果を発揮し改善が図られているかモニタリングを行い、お客さまに十分な価値提供ができているか確認できるまでフォローアップを継続します。
- 改善策やその後の進捗状況については、当レポートでお客さまに開示します。

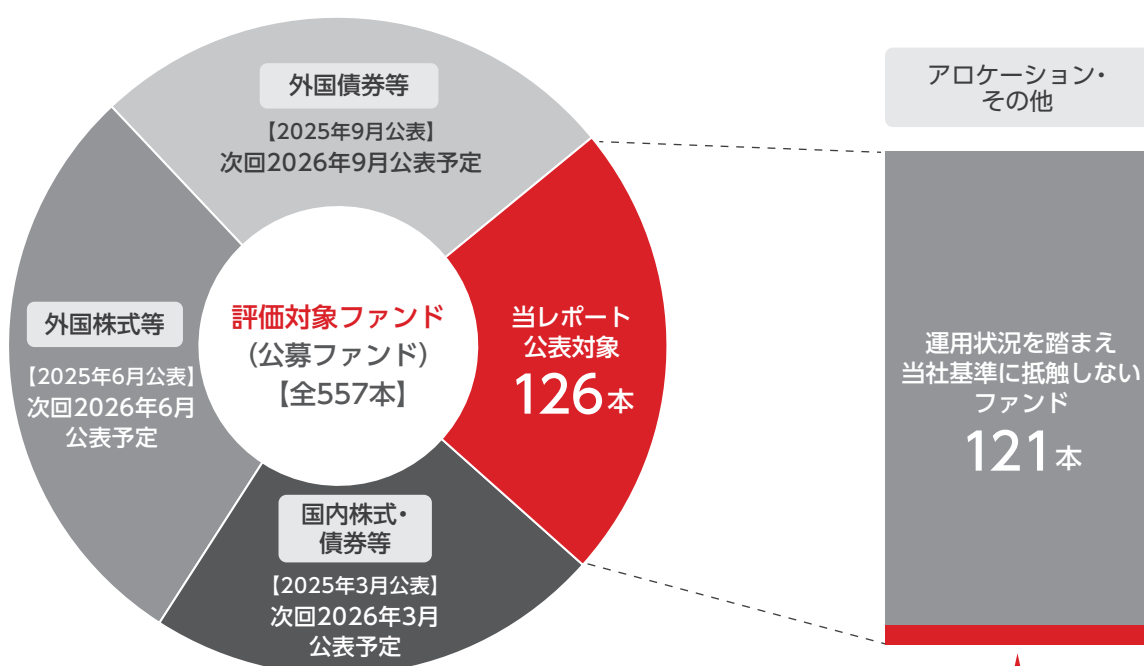
当レポートでご報告するファンドについて

当レポートでは評価対象ファンドを「国内株式・債券等」、「外国株式等」、「外国債券等」、「アロケーション・その他」の4つに分類し、各分類ごとに順次公表いたします。今回は「アロケーション・その他」に分類する126本のファンドを対象とし、評価した結果、以下5本のファンドについて要改善ファンドに該当すると判断いたしました。分析結果や改善に関する取り組み状況については、モーニングスター・カテゴリ別に次ページからご説明いたします。

※「国内株式・債券等」、「外国株式等」、「外国債券等」、「アロケーション・その他」の分類はモーニングスター・カテゴリを基に当社が行います。モーニングスター・カテゴリでアロケーション、オルタナティブ、コモディティ、その他に属するファンドを「アロケーション・その他」に分類しています。

※各ファンドの分析はモーニングスター・カテゴリ内における比較により行います。各ファンドの所属カテゴリや公表予定時期については当社ホームページ内[プロダクトガバナンスレポートページ](#)上のエクセルファイルをご確認ください。

※モーニングスター・カテゴリに関する著作権、知的財産権等一切の権利はMorningstarに帰属し、複製、転載、引用することを禁じます。



要改善ファンド5本

ファンド名	設定日	掲載ページ
三菱UFJ バランス・イノベーション(債券重視型)〈愛称:ファーストラップ(ささえ)〉	2014/12/25	13
三菱UFJ国際 インカムバランスファンド(年6回決算型)〈愛称:実りの定期便〉	2018/04/12	22
トレンド・アロケーション・オープン	2012/03/30	24
三菱UFJ国際 ターゲットリターン・ファンド(2%コース)	2020/03/27	25
AI 日本株式オープン(絶対収益追求型)〈愛称:日本AI〉	2017/02/01	33

※2024年12月定期レポート(アロケーション・その他)にて報告した要改善ファンドのうち、以下のファンドについては、下記の理由により当レポートにおける要改善ファンドには該当しておりませんので、お知らせいたします。

●三菱UFJ 資産設計ファンド(分配型)〈愛称:地球ゴマ〉:2025年1月に繰上償還済みのため。

01 アロケーション・安定型

対象ファンド数 当社21ファンド/業界全体176ファンド

カテゴリの運用状況について

- 当カテゴリに属する当社ファンド21本のうち、競合他社比劣後しているファンドについて、パフォーマンスの要因やコスト対比リターン、商品性など多角的な分析を行った結果、要改善ファンドに該当すると判断したファンド1本について次ページ以降で詳細をご報告いたします。
- なお、その他(要改善ファンド以外)のファンドにつきましても、引き続きお客さま本位の姿勢に徹し、確固たる運用哲学とプロダクトガバナンス・ポリシーに基づき、クオリティの高い運用・商品・サービスを安定的かつ継続的に提供出来るよう努めてまいります。(個別ファンドの運用状況については当社ホームページ内の各ファンドページをご覧ください)

カテゴリの平均リターンと平均コスト

リターン(%)				コスト(%)
過去1年	過去3年(年率)	過去5年(年率)	過去10年(年率)	
1.8	3.2	1.9	2.3	0.88

出所: Morningstar Directのデータを基に三菱UFJアセットマネジメントが作成

※業界全体の公募投資信託およびETFの中で、当該カテゴリに属するファンドより単純平均値を算出しております。

※コストは、直近の決算時の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税除く)より算出した総経費率を使用しております。ただし、初回決算を迎えていない等の理由から総経費率のデータがないファンドは、信託報酬率を使用しております。

カテゴリの定義

株式、REIT、債券、短期金融資産など幅広い資産クラスに分散投資を行い、投資元本の成長とインカムリターンの獲得を目指す。安定型は、やや安定型よりも株式の組入比率が低い傾向にある。当カテゴリは、リスク・スコアが40以下と定義される*。

*アロケーション型ファンドの分類について

アセット・アロケーション型ファンドは、リスク・スコアに基づき安定型、やや安定型、標準型、やや積極型、積極型に分類されている。各ファンドのリスク・スコアは、原則として各ファンドの基本資産配分比率と、イボットソン・アソシエイツ・ジャパンが算定した各資産のリスク値によって算出されている。なお、リスク・スコアは、50で標準偏差10%(年率)程度のリスク水準、100で標準偏差20%(年率)程度のリスク水準を示している。

当社ファンド一覧

◇インデックスファンド

No.	ファンド名(アルファベット順および五十音順)	設定日	純資産総額(億円)	要改善ファンド	当社HP
1	eMAXIS 最適化バランス(マイゴールキーパー)	2016/03/30	67	—	■
2	三菱UFJ <DC>インデックス・ライフ・バランス ファンド(安定型)	2001/12/19	50	—	■
3	三菱UFJ DC年金バランス(株式15)	2017/12/06	225	—	■
4	三菱UFJ DC年金バランス(株式25)	2019/08/23	37	—	■
5	三菱UFJ 資産配分最適化バランス(R1)〈愛称:わたしのとうしん〉	2025/07/02	4	—	■
6	三菱UFJ プライムバランス(安定型)(確定拠出年金)	2002/11/08	1,129	—	■
7	三菱UFJ ライフセレクトファンド(安定型)	2000/08/18	157	—	■

※当社ホームページの個別ファンドページ内に、各ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)および、リスクと費用に関する記載箇所へのリンクがございます。各ファンドの商品性、投資リスク、費用等についてはそちらをご確認ください。

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

※アロケーション・安定型カテゴリに関する著作権、知的財産権等一切の権利はMorningstarに帰属し、複製、転載、引用することを禁じます。

◇アクティブファンド(インデックスファンド以外のファンド)

No.	ファンド名(アルファベット順および五十音順)	設定日	純資産総額 (億円)	要改善 ファンド	当社HP
1	MUFG ウェルス・インサイト・ファンド・アネックス(為替リスク軽減型)コンサバティブコース	2024/05/13	5	—	■
2	スマート・クオリティ・オープン(安定型)〈愛称:スマラップ〉	2014/11/14	500	—	■
3	スマート・クオリティ・オープン(安定型)(1年決算型)〈愛称:スマラップN〉	2015/01/30	46	—	■
4	三菱UFJ <DC>グローバルバランス 20型〈愛称:<DC>未来地図20型〉	2002/01/31	3	—	■
5	三菱UFJ <DC>ライフ・バランスファンド(安定型)	2001/10/18	3	—	■
6	三菱UFJ MV20	2000/12/20	20	—	■
7	三菱UFJ 国内バランス20〈愛称:夢列島20〉	2001/02/28	16	—	■
8	三菱UFJ 日本バランスオープン 株式20型	2000/04/28	18	—	■
9	三菱UFJ 日本バランスオープン 株式40型	2000/04/28	25	—	■
10	三菱UFJ バランス・イノベーション(債券重視型)〈愛称:ファーストラップ(ささえ)〉	2014/12/25	59	●	■
11	三菱UFJ ライフ・バランスファンド(安定型)	2000/02/08	3	—	■
12	三菱UFJ ライフプラン 25〈愛称:ゆとりずむ25〉	2000/08/11	13	—	■
13	わたしの未来設計<安定重視型>(分配コース)	2018/09/04	84	—	■
14	わたしの未来設計<安定重視型>(分配抑制コース)	2018/09/04	45	—	■

※当社ホームページの個別ファンドページ内に、各ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)および、リスクと費用に関する記載箇所へのリンクがございます。

各ファンドの商品性、投資リスク、費用等についてはそちらをご確認ください。

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

※アロケーション・安定型カテゴリに関する著作権、知的財産権等一切の権利はMorningstarに帰属し、複製、転載、引用することを禁じます。

個別ファンドごとの改善に向けた取り組み

三菱UFJ バランス・イノベーション(債券重視型)

〈愛称:ファーストラップ(ささえ)〉

以下URL(当社ホームページ)の個別ファンドページ内に、当該ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)および、リスクと費用に関する記載箇所へのリンクがございます。当該ファンドの商品性、投資リスク、費用等についてはそちらをご確認ください。

<https://www.am.mufg.jp/fund/261136.html>

1 ファンドの概要 (市況動向および資金動向等により、下記の運用方針通りの運用が行えない場合があります。)

- 世界の株式や債券を主な投資対象とし、投資環境等の変化に合わせて組入比率を変更する投資信託です。
- 国内および先進国の株式・債券および短期公社債等に投資するファンド*1です。
- 国内株式および先進国株式の組入比率を抑えて、安定的な基準価額の上昇をめざすファンドです。
- 三菱UFJ信託銀行株式会社の投資助言・情報提供*2に基づき、三菱UFJアセットマネジメント株式会社が運用を行います。
- 株式の組入比率については、投資環境*3や株式部分の収益寄与*4に基づいて決定する「株式ウエイトマトリクス」を活用します。
- 実質組入外貨建資産のうち債券部分については、原則として為替変動リスクの低減をめざして為替ヘッジを行います。その他の実質的な組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。

*1 マザーファンドへの投資を通じて、実質的な投資を行います。

*2 ファンドは、年金運用に実績のある三菱UFJ信託銀行株式会社による助言をもとに運営します。なお、ファンドのベースとなっている「下方リスク抑制バランス」は、内外株式下落による損失回避と中期的な収益確保をめざし、機動的に投資比率をコントロールする運用商品であり、三菱UFJ信託銀行株式会社が三菱UFJトラスト投資工学研究所(MTEC)のサポートを受け、独自に開発したモデルに基づく運用手法で年金顧客向けに提供されております。

*3 「投資環境」は、株式市場や景気の方角性、信用リスクに対する市場の反応の大きさ、株式市場の値動きの大きさ等を測る複数の指標を用いて計算される相場局面判断インデックスをもとに判断します。

*4 「株式部分の収益寄与」は、過去の株式の収益率に組入比率を勘案して算出します。

2 運用状況の振り返り

- 2014年12月25日からの設定来リターンは、2025年9月末基準で年率▲0.1%とマイナスになりました。当ファンドは債券の組入比率が高位であるところ、2022年初頃から2022年末にかけて世界的な金利上昇を背景に債券価格が下落したことなどが基準価額の下落要因となりました。
- 過去1年のリターンは、2025年9月末基準で▲3.5%とマイナスになりました。2024年6月に当ファンドの信託報酬率を年率1.155%(税込)から年率0.935%(税込)へ引き下げましたが、国内金利上昇に伴う組入比率が高い国内債券の市況低迷、過去1年では、2025年4月のトランプ関税ショックを背景とした株式市況下落時に株式を組み入れていたこと、国内債券下落時の債券組入比率調整などが基準価額の下落要因となりました。

3 運用および商品性の改善に向けた取り組み状況

- 当ファンドでは、運用モデルを用いて、株式は「株式ウエイトマトリクス」を使用した機動的な組入比率変更、債券は債券下落に応じたポジション管理を行っております。
- 引き続き、運用モデルの有効性を確認するとともに、株式および債券の組入比率決定方法などの対応策についても検討を行う予定です。

パフォーマンスと運用コスト

- 当ファンドは、アロケーション・安定型カテゴリに属します。同カテゴリ平均リターンを多くの期間で下回る状況です。
- コストは、同カテゴリ平均値を上回る水準です。

	設定日	純資産 総額 (億円)	リターン(%)					コスト (%)
			過去1年	過去3年 (年率)	過去5年 (年率)	過去10年 (年率)	設定来 (年率)	
三菱UFJ バランス・イノベーション(債券重視型)	2014/12/25	59	▲3.5	▲0.5	▲0.6	▲0.1	▲0.1	1.00
アロケーション・安定型 カテゴリ平均			1.8	3.2	1.9	2.3	2.0	0.88

出所: Morningstar Directのデータを基に三菱UFJアセットマネジメントが作成

※設定来リターンはファンド設定日の前営業日を起点に計算しております。コストは、直近の決算時の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税除く)より算出した総経費率を使用しております。ただし、初回決算を迎えていない等の理由から総経費率のデータがないファンドは、信託報酬率を使用しております。なお、リターンは税金を考慮しておりません。

※アロケーション・安定型カテゴリに関する著作権、知的財産権等一切の権利はMorningstarに帰属し、複製、転載、引用することを禁じます。

※当社では要改善ファンドを特定するためのファンド提供価値の評価要素の一つとして、当社ファンドと同じカテゴリに所属するファンドとのコスト控除後のリターンについて、相対的な順位を確認しております。カテゴリの平均リターンおよび平均コストは相対的な順位のご参考としてお示ししているもので、当ファンドとカテゴリ内の他ファンドとのパフォーマンスの優劣を示したり、当ファンド売買の推奨もしくは勧誘等を目的とするものではありません。

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

02 アロケーション・やや安定型

対象ファンド数 当社24ファンド/業界全体165ファンド

カテゴリの運用状況について

- 当カテゴリに属する当社ファンド24本については、要改善ファンドに該当するとの判断には至りませんでした。
- なお、当該ファンドにつきましても、引き続きお客さま本位の姿勢に徹し、確固たる運用哲学とプロダクトガバナンス・ポリシーに基づき、クオリティの高い運用・商品・サービスを安定的かつ継続的に提供出来るよう努めてまいります。(個別ファンドの運用状況については当社ホームページ内の各ファンドページをご覧ください)

カテゴリの平均リターンと平均コスト

リターン(%)				コスト(%)
過去1年	過去3年(年率)	過去5年(年率)	過去10年(年率)	
6.6	7.8	5.6	4.9	1.05

出所: Morningstar Directのデータを基に三菱UFJアセットマネジメントが作成

※業界全体の公募投資信託およびETFの中で、当該カテゴリに属するファンドより単純平均値を算出しております。

※コストは、直近の決算時の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税除く)より算出した総経費率を使用しております。ただし、初回決算を迎えていない等の理由から総経費率のデータがないファンドは、信託報酬率を使用しております。

カテゴリの定義

株式、REIT、債券、短期金融資産など幅広い資産クラスに分散投資を行い、投資元本の成長とインカムリターンの獲得を目指す。やや安定型は、標準型よりも株式の組入比率が低い傾向にある。当カテゴリは、リスク・スコアが40超60以下と定義される*。

*アロケーション型ファンドの分類について

アセット・アロケーション型ファンドは、リスク・スコアに基づき安定型、やや安定型、標準型、やや積極型、積極型に分類されている。各ファンドのリスク・スコアは、原則として各ファンドの基本資産配分比率と、イボットソン・アソシエイツ・ジャパンが算定した各資産のリスク値によって算出されている。なお、リスク・スコアは、50で標準偏差10%(年率)程度のリスク水準、100で標準偏差20%(年率)程度のリスク水準を示している。

当社ファンド一覧

◇インデックスファンド

No.	ファンド名(アルファベット順および五十音順)	設定日	純資産総額(億円)	要改善ファンド	当社HP
1	eMAXIS 最適化バランス(マイディフェンダー)	2016/03/30	58	—	■
2	三菱UFJ <DC>インデックス・ライフ・バランス ファンド(安定成長型)	2001/12/19	147	—	■
3	三菱UFJ <DC>インデックス・ライフ・バランス ファンド(成長型)	2001/12/19	126	—	■
4	三菱UFJ DC年金バランス(株式40)	2017/12/06	331	—	■
5	三菱UFJ 資産配分最適化バランス(R2)〈愛称:わたしのとうしん〉	2025/07/02	10	—	■
6	三菱UFJ プライムバランス(8資産)(確定拠出年金)	2012/02/15	712	—	■
7	三菱UFJ プライムバランス(安定成長型)(確定拠出年金)	2002/11/08	3,600	—	■
8	三菱UFJ ライフセレクトファンド(安定成長型)	2000/08/18	427	—	■

※当社ホームページの個別ファンドページ内に、各ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)および、リスクと費用に関する記載箇所へのリンクがございます。各ファンドの商品性、投資リスク、費用等についてはそちらをご確認ください。

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

※アロケーション・やや安定型カテゴリに関する著作権、知的財産権等一切の権利はMorningstarに帰属し、複製、転載、引用することを禁じます。

◇アクティブファンド(インデックスファンド以外のファンド)

No.	ファンド名(アルファベット順および五十音順)	設定日	純資産総額 (億円)	要改善 ファンド	当社HP
1	MUFG ウェルス・インサイト・ファンド(保守型)	2021/05/25	100	—	■
2	スマート・クオリティ・オープン(安定成長型)〈愛称:スマラップ〉	2014/11/14	155	—	■
3	スマート・クオリティ・オープン(安定成長型)(1年決算型)〈愛称:スマラップN〉	2015/01/30	51	—	■
4	スマート・クオリティ・オープン・ゴールド(安定型)〈愛称:スマラップ・ゴールド〉	2017/02/07	19	—	■
5	三菱UFJ DC金利連動アロケーション型バランスファンド(愛称:DCオートマくん)	2007/08/10	137	—	■
6	三菱UFJ <DC>グローバルバランス 40型(愛称:<DC>未来地図40型)	2002/01/31	6	—	■
7	三菱UFJ DC世界ESGバランスファンド(愛称:ソーシャル・インパクト)	2021/03/25	3	—	■
8	三菱UFJ <DC>ライフ・バランスファンド(安定成長型)	2001/10/18	6	—	■
9	三菱UFJ <DC>ライフ・バランスファンド(成長型)	2001/10/18	4	—	■
10	三菱UFJ MV40	2000/12/20	44	—	■
11	三菱UFJ グローバルバランス(安定型)〈愛称:未来地図〉	1998/12/02	7	—	■
12	三菱UFJ 積立ファンド(日本バランス型)〈愛称:ふくふく〉	1998/12/01	25	—	■
13	三菱UFJ ライフ・バランスファンド(安定成長型)	2000/02/08	2	—	■
14	三菱UFJ ライフ・バランスファンド(成長型)	2000/02/08	2	—	■
15	三菱UFJ ライフプラン 50(愛称:ゆとりずむ50)	2000/08/11	34	—	■
16	ラップ向け2資産アロケーションファンドI(米国株式・世界債券)	2025/06/16	1	—	■

※当社ホームページの個別ファンドページ内に、各ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)および、リスクと費用に関する記載箇所へのリンクがございます。
各ファンドの商品性、投資リスク、費用等についてはそちらをご確認ください。

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

※アロケーション・やや安定型カテゴリに関する著作権、知的財産権等一切の権利はMorningstarに帰属し、複製、転載、引用することを禁じます。

03 アロケーション・標準型

対象ファンド数 当社17ファンド／業界全体198ファンド

カテゴリの運用状況について

- 当カテゴリに属する当社ファンド17本については、要改善ファンドに該当するとの判断には至りませんでした。
- なお、当該ファンドにつきましても、引き続きお客さま本位の姿勢に徹し、確固たる運用哲学とプロダクトガバナンス・ポリシーに基づき、クオリティの高い運用・商品・サービスを安定的かつ継続的に提供出来るよう努めてまいります。(個別ファンドの運用状況については当社ホームページ内の各ファンドページをご覧ください)

カテゴリの平均リターンと平均コスト

リターン(%)				コスト(%)
過去1年	過去3年(年率)	過去5年(年率)	過去10年(年率)	
9.7	10.7	8.6	6.0	1.26

出所: Morningstar Directのデータを基に三菱UFJアセットマネジメントが作成

※業界全体の公募投資信託およびETFの中で、当該カテゴリに属するファンドより単純平均値を算出しております。

※コストは、直近の決算時の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税除く)より算出した総経費率を使用しております。ただし、初回決算を迎えていない等の理由から総経費率のデータがないファンドは、信託報酬率を使用しております。

カテゴリの定義

株式、REIT、債券、短期金融資産など幅広い資産クラスに分散投資を行い、投資元本の成長とインカムリターンの獲得を目指す。標準型は、やや安定型よりも株式の組入比率が高い傾向にある。当カテゴリは、リスク・スコアが60超75以下と定義される*。

*アロケーション型ファンドの分類について

アセット・アロケーション型ファンドは、リスク・スコアに基づき安定型、やや安定型、標準型、やや積極型、積極型に分類されている。各ファンドのリスク・スコアは、原則として各ファンドの基本資産配分比率と、イボットソン・アソシエイツ・ジャパンが算定した各資産のリスク値によって算出されている。なお、リスク・スコアは、50で標準偏差10%(年率)程度のリスク水準、100で標準偏差20%(年率)程度のリスク水準を示している。

当社ファンド一覧

◇インデックスファンド

No.	ファンド名(アルファベット順および五十音順)	設定日	純資産総額(億円)	要改善ファンド	当社HP
1	eMAXIS バランス(4資産均等型)	2015/08/27	148	—	■
2	つみたて4資産均等バランス	2017/08/16	436	—	■
3	三菱UFJ <DC>インデックス・ライフ・バランス ファンド(積極型)	2001/12/19	112	—	■
4	三菱UFJ DC年金バランス(株式65)	2017/12/06	578	—	■
5	三菱UFJ 資産配分最適化バランス(R3)〈愛称:わたしのとうしん〉	2025/07/02	38	—	■

※当社ホームページの個別ファンドページ内に、各ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)および、リスクと費用に関する記載箇所へのリンクがございます。各ファンドの商品性、投資リスク、費用等についてはそちらをご確認ください。

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

※アロケーション・標準型カテゴリに関する著作権、知的財産権等一切の権利はMorningstarに帰属し、複製、転載、引用することを禁じます。

◇アクティブファンド(インデックスファンド以外のファンド)

No.	ファンド名(アルファベット順および五十音順)	設定日	純資産総額 (億円)	要改善 ファンド	当社HP
1	スマート・クオリティ・オープン・ゴールド(安定成長型)〈愛称:スマラップ・ゴールド〉	2017/02/07	3	—	■
2	世界ソブリン債券・日本株ファンド(毎月分配型)〈愛称:夢航路〉	2005/06/27	31	—	■
3	三菱UFJ 3資産分散ファンド(毎月決算型)	2005/12/09	33	—	■
4	三菱UFJ <DC>グローバルバランス 60型(愛称:<DC>未来地図60型)	2002/01/31	8	—	■
5	三菱UFJ <DC>ライフ・バランスファンド(積極型)	2001/10/18	5	—	■
6	三菱UFJ グローバルバランス(積極型)〈愛称:未来地図〉	1998/12/02	11	—	■
7	三菱UFJ バランスインカムオープン(毎月決算型)	2004/12/17	137	—	■
8	三菱UFJ バランスインカム・グローバル(毎月決算型)	2006/11/22	32	—	■
9	三菱UFJ ライフ・バランスファンド(積極型)	2000/02/08	3	—	■
10	ラップ向け2資産アロケーションファンドⅡ(米国株式・世界債券)	2025/06/16	1	—	■
11	わたしの未来設計<成長重視型>(分配コース)	2018/09/04	43	—	■
12	わたしの未来設計<成長重視型>(分配抑制コース)	2018/09/04	48	—	■

※当社ホームページの個別ファンドページ内に、各ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)および、リスクと費用に関する記載箇所へのリンクがございます。

各ファンドの商品性、投資リスク、費用等についてはそちらをご確認ください。

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

※アロケーション・標準型カテゴリに関する著作権、知的財産権等一切の権利はMorningstarに帰属し、複製、転載、引用することを禁じます。

04 アロケーション・やや積極型

対象ファンド数 当社19ファンド／業界全体140ファンド

カテゴリの運用状況について

- 当カテゴリに属する当社ファンド19本については、要改善ファンドに該当するとの判断には至りませんでした。
- なお、当該ファンドにつきましても、引き続きお客さま本位の姿勢に徹し、確固たる運用哲学とプロダクトガバナンス・ポリシーに基づき、クオリティの高い運用・商品・サービスを安定的かつ継続的に提供出来るよう努めてまいります。（個別ファンドの運用状況については当社ホームページ内の各ファンドページをご覧ください）

カテゴリの平均リターンと平均コスト

リターン(%)				コスト(%)
過去1年	過去3年(年率)	過去5年(年率)	過去10年(年率)	
11.9	12.8	11.0	7.3	1.18

出所:Morningstar Directのデータを基に三菱UFJアセットマネジメントが作成

※業界全体の公募投資信託およびETFの中で、当該カテゴリに属するファンドより単純平均値を算出しております。

※コストは、直近の決算時の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税除く)より算出した総経費率を使用しております。ただし、初回決算を迎えていない等の理由から総経費率のデータがないファンドは、信託報酬率を使用しております。

カテゴリの定義

株式、REIT、債券、短期金融資産など幅広い資産クラスに分散投資を行い、投資元本の成長とインカムリターンの獲得を目指す。やや積極型は、標準型よりも株式の組入比率が高い傾向にある。当カテゴリは、リスク・スコアが75超90以下と定義される*。

*アロケーション型ファンドの分類について

アセット・アロケーション型ファンドは、リスク・スコアに基づき安定型、やや安定型、標準型、やや積極型、積極型に分類されている。各ファンドのリスク・スコアは、原則として各ファンドの基本資産配分比率と、イボットソン・アソシエイツ・ジャパンが算定した各資産のリスク値によって算出されている。なお、リスク・スコアは、50で標準偏差10%(年率)程度のリスク水準、100で標準偏差20%(年率)程度のリスク水準を示している。

当社ファンド一覧

◇インデックスファンド

No.	ファンド名(アルファベット順および五十音順)	設定日	純資産総額(億円)	要改善ファンド	当社HP
1	eMAXIS Slim バランス(8資産均等型)	2017/05/09	3,993	—	■
2	eMAXIS 最適化バランス(マイミッドフィルダー)	2016/03/30	191	—	■
3	eMAXIS バランス(8資産均等型)	2011/10/31	594	—	■
4	つみたて8資産均等バランス	2017/08/16	2,066	—	■
5	三菱UFJ DC年金バランス(株式80)	2021/10/20	23	—	■
6	三菱UFJ プライムバランス(成長型)(確定拠出年金)	2002/11/08	3,209	—	■
7	三菱UFJ ライフセレクトファンド(成長型)	2000/08/18	312	—	■

※当社ホームページの個別ファンドページ内に、各ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)および、リスクと費用に関する記載箇所へのリンクがございます。

各ファンドの商品性、投資リスク、費用等についてはそちらをご確認ください。

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

※アロケーション・やや積極型カテゴリに関する著作権、知的財産権等一切の権利はMorningstarに帰属し、複製、転載、引用することを禁じます。

◇アクティブファンド(インデックスファンド以外のファンド)

No.	ファンド名(アルファベット順および五十音順)	設定日	純資産総額 (億円)	要改善 ファンド	当社HP
1	eMAXIS/PayPay証券 全世界バランス	2024/09/20	10	—	■
2	MUFG ウェルス・インサイト・ファンド・アネックス(為替リスク軽減型)スタンダードコース	2024/05/13	16	—	■
3	MUFG ウェルス・インサイト・ファンド(標準型)	2021/05/25	1,824	—	■
4	オーストラリア好利回り3資産バランス(年2回決算型)〈愛称:実りの大地〉	2018/03/05	91	—	■
5	スマート・クオリティ・オープン(成長型)〈愛称:スマラップ〉	2014/11/14	115	—	■
6	スマート・クオリティ・オープン(成長型)(1年決算型)〈愛称:スマラップN〉	2015/01/30	35	—	■
7	三菱UFJ 6資産バランスファンド(2ヵ月分配型)	2006/03/17	28	—	■
8	三菱UFJ 6資産バランスファンド(成長型)	2006/03/17	27	—	■
9	三菱UFJ MV80	2000/12/20	91	—	■
10	三菱UFJ ライフプラン 75(愛称:ゆとりずむ75)	2000/08/11	35	—	■
11	ラップ向け2資産アロケーションファンドⅢ(米国株式・世界債券)	2025/06/16	4	—	■
12	ラップ向け2資産アロケーションファンドⅣ(米国株式・世界債券)	2025/06/16	3	—	■

※当社ホームページの個別ファンドページ内に、各ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)および、リスクと費用に関する記載箇所へのリンクがございます。

各ファンドの商品性、投資リスク、費用等についてはそちらをご確認ください。

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

※アロケーション・やや積極型カテゴリに関する著作権、知的財産権等一切の権利はMorningstarに帰属し、複製、転載、引用することを禁じます。

05 アロケーション・積極型

対象ファンド数 当社9ファンド／業界全体77ファンド

カテゴリの運用状況について

- 当カテゴリに属する当社ファンド9本のうち、競合他社比劣後しているファンドについて、パフォーマンスの要因やコスト対比リターン、商品性など多角的な分析を行った結果、要改善ファンドに該当すると判断したファンド1本について次ページ以降で詳細をご報告いたします。
- なお、その他(要改善ファンド以外)のファンドにつきましても、引き続きお客さま本位の姿勢に徹し、確固たる運用哲学とプロダクトガバナンス・ポリシーに基づき、クオリティの高い運用・商品・サービスを安定的かつ継続的に提供出来るよう努めてまいります。(個別ファンドの運用状況については当社ホームページ内の各ファンドページをご覧ください)

カテゴリの平均リターンと平均コスト

リターン(%)				コスト(%)
過去1年	過去3年(年率)	過去5年(年率)	過去10年(年率)	
14.0	13.8	12.1	7.4	1.39

出所: Morningstar Directのデータを基に三菱UFJアセットマネジメントが作成

※業界全体の公募投資信託およびETFの中で、当該カテゴリに属するファンドより単純平均値を算出しております。

※コストは、直近の決算時の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税除く)より算出した総経費率を使用しております。ただし、初回決算を迎えていない等の理由から総経費率のデータがないファンドは、信託報酬率を使用しております。

カテゴリの定義

株式、REIT、債券、短期金融資産など幅広い資産クラスに分散投資を行い、投資元本の成長とインカムリターンの獲得を目指す。積極型は、やや積極型よりも株式の組入比率が高い傾向にある。当カテゴリは、リスク・スコアが90超と定義される*。

*アロケーション型ファンドの分類について

アセット・アロケーション型ファンドは、リスク・スコアに基づき安定型、やや安定型、標準型、やや積極型、積極型に分類されている。各ファンドのリスク・スコアは、原則として各ファンドの基本資産配分比率と、イボットソン・アソシエイツ・ジャパンが算定した各資産のリスク値によって算出されている。なお、リスク・スコアは、50で標準偏差10%(年率)程度のリスク水準、100で標準偏差20%(年率)程度のリスク水準を示している。

当社ファンド一覧

◇インデックスファンド

No.	ファンド名(アルファベット順および五十音順)	設定日	純資産総額(億円)	要改善ファンド	当社HP
1	eMAXIS 最適化バランス(マイストライカー)	2016/03/30	231	—	■
2	eMAXIS 最適化バランス(マイフォワード)	2016/03/30	128	—	■
3	三菱UFJ 資産配分最適化バランス(R4)〈愛称:わたしのとうしん〉	2025/07/02	24	—	■
4	三菱UFJ 資産配分最適化バランス(R5)〈愛称:わたしのとうしん〉	2025/07/02	13	—	■

※当社ホームページの個別ファンドページ内に、各ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)および、リスクと費用に関する記載箇所へのリンクがございます。各ファンドの商品性、投資リスク、費用等についてはそちらをご確認ください。

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

※アロケーション・積極型カテゴリに関する著作権、知的財産権等一切の権利はMorningstarに帰属し、複製、転載、引用することを禁じます。

◇アクティブファンド(インデックスファンド以外のファンド)

No.	ファンド名(アルファベット順および五十音順)	設定日	純資産総額 (億円)	要改善 ファンド	当社HP
1	MUFG ウェルス・インサイト・ファンド(積極型)	2021/05/25	684	—	■
2	オルタナティブ資産セレクション(ラップ向け)	2017/03/13	131	—	■
3	グローバル財産3分法ファンド(毎月決算型)	2005/10/14	125	—	■
4	スマート・クオリティ・オープン・ゴールド(成長型)〈愛称:スマラップ・ゴールド〉	2017/02/07	3	—	■
5	三菱UFJ国際インカムバランスファンド(年6回決算型)〈愛称:実りの定期使〉	2018/04/12	10	●	■

※当社ホームページの個別ファンドページ内に、各ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)および、リスクと費用に関する記載箇所へのリンクがございます。

各ファンドの商品性、投資リスク、費用等についてはそちらをご確認ください。

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

※アロケーション・積極型カテゴリに関する著作権、知的財産権等一切の権利はMorningstarに帰属し、複製、転載、引用することを禁じます。

個別ファンドごとの改善に向けた取り組み

三菱UFJ国際 インカムバランスファンド(年6回決算型)

〈愛称:実りの定期便〉

以下URL(当社ホームページ)の個別ファンドページ内に、当該ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)および、リスクと費用に関する記載箇所へのリンクがございます。当該ファンドの商品性、投資リスク、費用等についてはそちらをご確認ください。
<https://www.am.mufg.jp/fund/253182.html>

1 ファンドの概要 (市況動向および資金動向等により、下記の運用方針通りの運用が行えない場合があります。)

- 先進国の国債、株式、投資適格債、ハイ・イールド債、不動産投資信託証券(以下、「リート」といいます。)、バンクローン、不動産担保証券等および新興国の国債へ幅広く投資します。*1
 - 価格下落リスクに配慮しつつ、安定的な利回りの獲得をめざして資産配分を行います。
 - 定量的手法を活用し、組入資産の加重平均利回りが年率4%程度*2となることをめざして資産配分を決定します。ファンドは組入資産の加重平均利回りが年率4%程度となるよう管理を行いつつ、各投資対象資産の利回り水準のほか、各投資対象資産の過去の収益率や市場局面判断などをふまえて算出した価格下落リスク等を基に資産配分を決定します。*3
 - 実質組入外貨建資産のうち、先進国の国債ならびに、先進国の投資適格債、ハイ・イールド債、バンクローン、不動産担保証券等および新興国の国債を投資対象とするETFに関しては、原則として為替変動リスクの低減をめざして為替ヘッジを行います。その他の実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。
- *1 先進国の株式、投資適格債、ハイ・イールド債、リート、バンクローン、不動産担保証券等および新興国の国債への投資は、上場投資信託証券(以下、「ETF」ということがあります。)への投資を通じて行うことを原則とします。なお、実際の運用はインカムバランス・マザーファンドを通じて行います。
- *2 資産配分の決定にあたり市場局面が悪化したと判断される場合には、ファンド全体のリスクを低下させるため、先進国の国債の組入比率が高い資産配分となります。この場合、組入資産の加重平均利回り水準は4%程度とならないことがあります。
- *3 ファンドは、資産配分において「組入資産の加重平均利回り」が年率4%程度となることをめざします。このため、ファンドのトータル・リターン(総損益率)、インカム収益(配当等収益)や収益分配金の水準が一定の水準となることを示唆または保証するものではありません。

2 運用状況の振り返り

- 2025年9月末基準で、設定来リターンは年率▲0.2%とマイナスになっております。2020年に新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、保有していた先進国株式等の価格が大きく下落したことに加え、円高も進行したことから、パフォーマンスが大幅に悪化しました。その後、株価が堅調な局面では、回復傾向も見られました。
- 過去1年のリターンは、1.1%と低位にとどまっております。2025年4月のトランプ関税の影響が事前の想定を上回る規模となったことに加え、米中対立の深刻化によりリスク資産を中心に資産価格が急落し、リスク資産の大幅な圧縮を実施しました。その後、リスク資産の配分を引き上げる前に、米国が関税の上乗せ部分の適用時期を一時停止したことや、米中対立の緩和などを背景に、リスク資産の価格が回復基調となったことから、過去1年間の運用期間において当ファンドのパフォーマンスはカテゴリ平均を下回る結果となりました。

3 運用および商品性の改善に向けた取り組み状況

- 2025年4月のトランプ関税ショックをはじめ、近年リスク資産が短期的に急落し、その後急反発するような相場が増加しています。こうした状況を踏まえ、市場の局面判断において、短期的な市場変動による影響を緩和し、トレンドを伴った下落局面を中心に機能させることを目指して、2025年8月に資産配分実施の判断基準を見直しました。
- 今後も運用手法の有効性を検証し、引き続きパフォーマンスの向上に向けた運用改善を実施してまいります。

パフォーマンスと運用コスト

- 当ファンドは、アロケーション・積極型カテゴリに属します。同カテゴリ平均リターンを多くの期間で下回る状況です。
- コストは、同カテゴリ平均値を下回る水準です。

	設定日	純資産 総額 (億円)	リターン(%)					コスト (%)
			過去1年	過去3年 (年率)	過去5年 (年率)	過去10年 (年率)	設定来 (年率)	
三菱UFJ国際 インカムバランスファンド(年6回決算型)	2018/04/12	10	1.1	8.8	4.6	—	▲0.2	1.19
アロケーション・積極型 カテゴリ平均			14.0	13.8	12.1	7.4	8.1	1.39

出所: Morningstar Directのデータを基に三菱UFJアセットマネジメントが作成

※設定来リターンはファンド設定日の前営業日を起点に計算しております。コストは、直近の決算時の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税除く)より算出した総経費率を使用しております。ただし、初回決算を迎えていない等の理由から総経費率のデータがないファンドは、信託報酬率を使用しております。なお、リターンは税金を考慮しておりません。

※アロケーション・積極型カテゴリに関する著作権、知的財産権等一切の権利はMorningstarに帰属し、複製、転載、引用することを禁じます。

※当社では要改善ファンドを特定するためのファンド提供価値の評価要素の一つとして、当社ファンドと同じカテゴリに所属するファンドとのコスト控除後のリターンについて、相対的な順位を確認しております。カテゴリの平均リターンおよび平均コストは相対的な順位のご参考としてお示ししているもので、当ファンドとカテゴリ内の他ファンドとのパフォーマンスの優劣を示したり、当ファンド売買の推奨もしくは勧誘等を目的とするものではありません。

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

06 アロケーション・TAA型

対象ファンド数 当社12ファンド/業界全体142ファンド

カテゴリの運用状況について

- 当カテゴリに属する当社ファンド12本のうち、競合他社比劣後しているファンドについて、パフォーマンスの要因やコスト対比リターン、商品性など多角的な分析を行った結果、要改善ファンドに該当すると判断したファンド2本について次ページ以降で詳細をご報告いたします。
- なお、その他(要改善ファンド以外)のファンドにつきましても、引き続きお客さま本位の姿勢に徹し、確固たる運用哲学とプロダクトガバナンス・ポリシーに基づき、クオリティの高い運用・商品・サービスを安定的かつ継続的に提供出来るよう努めてまいります。(個別ファンドの運用状況については当社ホームページ内の各ファンドページをご覧ください)

カテゴリの平均リターンと平均コスト

リターン(%)				コスト(%)
過去1年	過去3年(年率)	過去5年(年率)	過去10年(年率)	
6.3	6.6	4.9	3.4	1.45

出所: Morningstar Directのデータを基に三菱UFJアセットマネジメントが作成

※業界全体の公募投資信託およびETFの中で、当該カテゴリに属するファンドより単純平均値を算出しております。

※コストは、直近の決算時の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税除く)より算出した総経費率を使用しております。ただし、初回決算を迎えていない等の理由から総経費率のデータがないファンドは、信託報酬率を使用しております。

カテゴリの定義

投資対象となる株式、REIT、債券、短期金融資産など幅広い資産クラスの市場動向を予測し、機動的に資産配分を変換することで、投資元本の成長とインカムリターンの獲得を目指す。

当社ファンド一覧

◇インデックスファンド

当カテゴリに属する当社ファンドは該当なし

◇アクティブファンド(インデックスファンド以外のファンド)

No.	ファンド名(アルファベット順および五十音順)	設定日	純資産総額(億円)	要改善ファンド	当社HP
1	eMAXIS バランス(波乗り型)	2011/10/31	46	—	■
2	アクティブアロケーションファンド(ラップ向け)	2022/09/30	35	—	■
3	グローバルオルタナティブ・プレミアム・セレクション(SMA)	2025/06/06	44	—	■
4	ダイナミックアロケーションファンド(ラップ向け)	2021/11/30	536	—	■
5	トレンド・アロケーション・オープン	2012/03/30	462	●	■
6	三菱UFJ DCバランス・イノベーション(KAKUSHIN)	2014/05/30	280	—	■
7	三菱UFJ国際 ターゲットリターン・ファンド(2%コース)	2020/03/27	1	●	■
8	三菱UFJ バランス・イノベーション(株式重視型)〈愛称:ファーストラップ(ささえ)〉	2013/10/25	170	—	■
9	三菱UFJ バランス・イノベーション(株式抑制型)〈愛称:ファーストラップ(ささえ)〉	2013/10/25	134	—	■
10	三菱UFJ バランス・イノベーション(新興国投資型)〈愛称:ファーストラップ(ささえ)〉	2013/10/25	36	—	■
11	ラップ向けアクティブアロケーションファンド	2022/01/27	5	—	■
12	ラップ向けダイナミックアロケーションファンド	2022/01/27	23	—	■

※当社ホームページの個別ファンドページ内に、各ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)および、リスクと費用に関する記載箇所へのリンクがございます。各ファンドの商品性、投資リスク、費用等についてはそちらをご確認ください。

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

※アロケーション・TAA型カテゴリに関する著作権、知的財産権等一切の権利はMorningstarに帰属し、複製、転載、引用することを禁じます。

トレンド・アロケーション・オープン

以下URL(当社ホームページ)の個別ファンドページ内に、当該ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)および、リスクと費用に関する記載箇所へのリンクがございます。当該ファンドの商品性、投資リスク、費用等についてはそちらをご確認ください。
<https://www.am.mufg.jp/fund/148098.html>

1 ファンドの概要 (市況動向および資金動向等により、下記の運用方針通りの運用が行えない場合があります。)

- アリアンツ・グローバル・インベスターズ(以下「アリアンツGI」)が運用を行うファンド*1を通じて、実質的に、世界各国の株式・債券・リート等の幅広い資産*2に投資を行います。また、マネー・プール マザーファンドへの投資も行います。
- 安定的な資産成長のために、次の3つの戦略により構成されるダイナミック・マルチアセット・プラス戦略*3により、機動的な資産配分を行います。
 - ①【基本戦略】基本資産配分(トレンド・アロケーション)- 市場サイクル分析の結果を基にした資産配分比率決定
 - ②【補完戦略】基本資産配分に対する微調整(タクティカル・アセット・アロケーション)- 運用専門家の見通しを反映
 - ③【リスク管理戦略】下落リスクへの対応(ダウンサイド・リスク・マネジメント)

【リスク管理戦略】では、過去1年の高値からの下落率が15%以内に収まること*4を目指します。*5
 必要に応じて、低リスク資産と高リスク資産の配分比率を維持したまま、短期債券・キャッシュ等の組入比率を高めます。これにより、下落時のファンドの値動きが緩やかになることが期待されます。

- 外貨建資産については、原則として対円で為替ヘッジを行います。
- *1 ダイナミック・マルチアセット・プラス・ファンド(JPY)
- *2 先進国の国債に投資を行うとともに、世界各国のETF等を利用します。また、組入比率の調整を目的として、世界各国の先物取引も利用します。先進国の国債とは、世界銀行の分類を参考に、アリアンツGIが「先進国」と定義した国の国債をいいます。ETF等とは、投資成果または償還価額等が金融指標その他の指標等に連動することを目的とする投資信託証券、受益証券発行信託の受益証券および債券で、金融商品取引所に上場されているものをいいます。
- *3 くわしくは、投資信託説明書(交付目論見書)に記載している「追加的記載事項」をご確認ください。
- *4 下落率を過去1年間の高値から必ず15%以内に収めることをお約束するものではありません。
- *5 下落率が15%を超えた場合は、推定最大損失率が回復するまでの間、短期債券やキャッシュ等の比率の高い運用を継続することがありますが、その際、一定程度高リスク資産へも投資を行うこともあります。

2 運用状況の振り返り

- 2012年3月30日の設定来リターンは、2025年9月末時点で年率0.1%にとどまりました。2020年3月のコロナショックによるリスク資産の急落で、過去1年の高値からの下落率が15%を超えたため、低リスク資産100%の保守的なポートフォリオによる運用を約1年間継続しました。この対応が、リスク資産の上昇局面でパフォーマンスの悪化要因となりました。
- 過去1年のリターンは、2025年9月末時点で▲8.0%とマイナスとなり、カテゴリ平均を大きく下回る結果となりました。2025年4月のトランプ関税ショックなどを受け、各資産のトレンドやダウンサイド・リスク・マネジメント戦略に基づき高リスク資産への投資を抑制した結果、その後のリスク資産上昇によるリターンを十分に享受できませんでした。

3 運用および商品性の改善に向けた取り組み状況

- これまで、過去1年の高値からの下落率が15%を超えないようダウンサイド・リスク・マネジメントを強化し、リスク資産急落時に、より迅速な対応が出来るよう売買頻度を高めるなどの措置を導入してきました。
- コロナショック時のようにリスク資産が急落した後、急回復する局面で収益獲得機会を確保し、リスク資産上昇の恩恵を享受できるよう、2025年7月1日より【リスク管理戦略】の一部見直しを行いました。具体的には、過去1年の高値からの下落率が15%を超えた場合でも、【基本戦略】および【補完戦略】に基づき、投資環境が適切と判断される場合には、一定程度高リスク資産への投資を可能とする柔軟性を導入しました。
- その他の運用改善策についても、アリアンツGIと継続して協議を行い、さらなる運用改善策の検討を進めてまいります。

パフォーマンスと運用コスト

- 当ファンドは、アロケーション・TAA型カテゴリに属します。同カテゴリ平均リターンを多くの期間で下回る状況です。
- コストは、同カテゴリ平均値を下回る水準です。

	設定日	純資産 総額 (億円)	リターン(%)					コスト (%)
			過去1年	過去3年 (年率)	過去5年 (年率)	過去10年 (年率)	設定来 (年率)	
トレンド・アロケーション・オープン	2012/03/30	462	▲8.0	▲1.3	▲1.2	▲1.1	0.1	1.30
アロケーション・TAA型 カテゴリ平均			6.3	6.6	4.9	3.4	5.2	1.45

出所: Morningstar Directのデータを基に三菱UFJアセットマネジメントが作成

※設定来リターンはファンド設定日の前営業日を起点に計算しております。コストは、直近の決算時の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税除く)より算出した総経費率を使用しております。ただし、初回決算を迎えていない等の理由から総経費率のデータがないファンドは、信託報酬率を使用しております。なお、リターンは税金を考慮してありません。

※アロケーション・TAA型カテゴリに関する著作権、知的財産権等一切の権利はMorningstarに帰属し、複製、転載、引用することを禁じます。

※当社では要改善ファンドを特定するためのファンド提供価値の評価要素の一つとして、当社ファンドと同じカテゴリに所属するファンドとのコスト控除後のリターンについて、相対的な順位を確認しております。カテゴリの平均リターンおよび平均コストは相対的な順位のご参考としてお示ししているもので、当ファンドとカテゴリ内の他ファンドとのパフォーマンスの優劣を示したり、当ファンド売上の推奨もしくは勧誘等を目的とするものではありません。

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

三菱UFJ国際 ターゲットリターン・ファンド(2%コース)

以下URL(当社ホームページ)の個別ファンドページ内に、当該ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)および、リスクと費用に関する記載箇所へのリンクがございます。当該ファンドの商品性、投資リスク、費用等についてはそちらをご確認ください。
<https://www.am.mufg.jp/fund/253814.html>

1 ファンドの概要 (市況動向および資金動向等により、下記の運用方針通りの運用が行えない場合があります。)

- ファンドの運用にあたっては、中長期的な目標リターン*1(年率2%(信託報酬等控除後))の達成をめざして運用を行います。
 - 当目標を達成するために、年率3%*2(信託報酬等控除前)程度のリターンをめざす以下の投資信託証券(以下「指定投資信託証券」といいます。)へ均等投資します(2025年9月末時点)*3。
 - ①SMTAM・FOFs用先進国債券・通貨ターゲットリターン・ファンド(2%目標コース)(適格機関投資家専用)
 - ②SOMPOターゲット・リターン戦略ファンド(2%コース)(FOFs用)(適格機関投資家専用)
 - ③SMDAM・ターゲットリターン型マルチアセットファンド(2%コース向け)(適格機関投資家限定)
 - ④GIMターゲット・リターン・ファンドF(2%コース)(適格機関投資家専用)
 - ⑤野村FOFs用・ターゲット・リターン・8資産バランス(2%コース向け)(適格機関投資家専用)
 - 指定投資信託証券への投資を通じて、主として日本を含む世界各国の株式、債券および通貨等の幅広い資産(不動産投資信託証券を含みます。)に投資を行います。
 - 三菱アセット・ブレインズ株式会社から指定投資信託証券の選定に関する助言を受け、運用を行います。
- *1 目標リターン(年率2%(信託報酬等控除後))はポートフォリオを構築する際の目標値として使用します。このため、ファンドの実際のリターンが目標リターンを上回る場合や下回る場合があり、その達成を示唆あるいは保証するものではありません。
- *2 指定投資信託証券では信託報酬やその他の費用がかかり、当ファンドにおいても費用がかかります。そのため、指定投資信託証券ではこれらの経費を控除する前の目標リターンとして3%程度を設定し、当ファンドの目標リターンはこれらの経費を控除した後の2%に設定しています。
- *3 指定投資信託証券は定量・定性の評価等を勘案して適宜見直しを行います。この際、指定投資信託証券として指定されていた投資信託証券を指定から外したり、新たに投資信託証券(当ファンド設定以降に設定された投資信託証券も含みます。)を指定投資信託証券として指定する場合があります。

2 運用状況の振り返り

- 当ファンドは、中長期的な目標として年率2%(信託報酬等控除後)リターンの達成に向けて、2020年3月の設定来、上記の5ファンドに均等投資を行いましたが、設定来での実績リターンは年率0.1%と目標を下回っております。
- 投資先ファンドは、助言元の三菱アセット・ブレインズ株式会社が運用戦略の分散や投資信託証券間の相関等も考慮し選定しておりますが、2021年から2023年にかけての主要国中央銀行による金融引き締めによって海外主要国金利が上昇したことを背景に、投資先ファンドが保有する外国債券の価格が下落したことを主因として、当ファンドの基準価額は下落しました。
- このような環境下、2023年12月に、上記の5ファンドのうち②SOMPOターゲット・リターン戦略ファンドにおいて、**3**に後述する改善策を実施しましたが、直近1年ではヘッジ付き外債に投資する投資先ファンドが円安局面において劣化したことなどから、ファンド全体では目標リターンを下回る状況が続いております。

3 運用および商品性の改善に向けた取り組み状況

- 2023年12月に、上記の5ファンドのうち②SOMPOターゲット・リターン戦略ファンドにおいて、金利上昇局面で債券の組入比率を抑制しポートフォリオを保全することを目的とした改善策を導入しました。改善策の導入以降、債券下落の蓋然性が高まったタイミングにて債券比率を抑制することで一定の改善効果が見られましたが、ファンド全体では中長期的な目標リターンを下回る状況が続いております。
- 引き続き、ファンド選定に関する助言を担う三菱アセット・ブレインズ株式会社及び投資先ファンドの運用会社と協働し、運用改善に向けた取り組みを検討してまいります。

パフォーマンスと運用コスト

- 当ファンドは、アロケーション・TAA型カテゴリに属します。同カテゴリ平均リターンを多くの期間で下回る状況です。また、中長期的な目標リターン(年率2%(信託報酬等控除後))を過去3年や5年、設定来で下回る状況です。
- コストは、同カテゴリ平均値を上回る水準です。

	設定日	純資産 総額 (億円)	リターン(%)					コスト (%)
			過去1年	過去3年 (年率)	過去5年 (年率)	過去10年 (年率)	設定来 (年率)	
三菱UFJ国際 ターゲットリターン・ファンド(2%コース)	2020/03/27	1	▲1.6	0.5	▲0.4	—	0.1	1.58
アロケーション・TAA型 カテゴリ平均			6.3	6.6	4.9	3.4	6.3	1.45

出所: Morningstar Directのデータを基に三菱UFJアセットマネジメントが作成

※設定来リターンはファンド設定日の前営業日を起点に計算しております。コストは、直近の決算時の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税除く)より算出した総経費率を使用しております。ただし、初回決算を迎えていない等の理由から総経費率のデータがないファンドは、信託報酬率を使用しております。なお、リターンは税金を考慮していません。

※アロケーション・TAA型カテゴリに関する著作権、知的財産権等一切の権利はMorningstarに帰属し、複製、転載、引用することを禁じます。

※当社では要改善ファンドを特定するためのファンド提供価値の評価要素の一つとして、当社ファンドと同じカテゴリに所属するファンドとのコスト控除後のリターンについて、相対的な順位を確認しております。カテゴリの平均リターンおよび平均コストは相対的な順位のご参考としてお示ししているもので、当ファンドとカテゴリ内の他ファンドとのパフォーマンスの優劣を示したり、当ファンド売買の推奨もしくは勧誘等を目的とするものではありません。

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

07 アロケーション・ターゲットイヤー型 (2030年以前)

対象ファンド数 当社3ファンド/業界全体34ファンド

カテゴリの運用状況について

- 当カテゴリに属する当社ファンド3本については、要改善ファンドに該当するとの判断には至りませんでした。
- なお、当該ファンドにつきましても、引き続きお客さま本位の姿勢に徹し、確固たる運用哲学とプロダクトガバナンス・ポリシーに基づき、クオリティの高い運用・商品・サービスを安定的かつ継続的に提供出来るよう努めてまいります。(個別ファンドの運用状況については当社ホームページ内の各ファンドページをご覧ください)

カテゴリの平均リターンと平均コスト

リターン (%)				コスト (%)
過去1年	過去3年 (年率)	過去5年 (年率)	過去10年 (年率)	
2.5	4.4	3.6	3.0	0.73

出所: Morningstar Directのデータを基に三菱UFJアセットマネジメントが作成

※業界全体の公募投資信託およびETFの中で、当該カテゴリに属するファンドより単純平均値を算出しております。

※コストは、直近の決算時の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税除く)より算出した総経費率を使用しております。ただし、初回決算を迎えていない等の理由から総経費率のデータがないファンドは、信託報酬率を使用しております。

カテゴリの定義

将来の退職日や資金使用日など、将来の特定期日(このカテゴリは2030年以前)をターゲットに運用している投資家のために、株式、REIT、債券、短期金融資産など様々な資産クラスに分散投資を行う。このカテゴリは、事前に設定した将来の目標期日に合わせて、ポートフォリオの最適なリターンとリスクの水準を投資家に提供することを目指す。時間が経過し、目標期日に近づくにつれて、より保守的な資産配分に変更される。

当社ファンド一覧

◇インデックスファンド

当カテゴリに属する当社ファンドは該当なし

◇アクティブファンド(インデックスファンド以外のファンド)

No.	ファンド名(アルファベット順および五十音順)	設定日	純資産総額 (億円)	要改善ファンド	当社HP
1	三菱UFJ <DC>ターゲット・イヤー ファンド 2030	2001/11/14	4	—	■
2	三菱UFJ ターゲット・イヤーファンド 2030	2000/02/08	1	—	■
3	三菱UFJ ターゲット・イヤー・ファンド2030(確定拠出年金) (愛称:あすへのそなえ)	2015/12/18	279	—	■

※当社ホームページの個別ファンドページ内に、各ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)および、リスクと費用に関する記載箇所へのリンクがございます。

各ファンドの商品性、投資リスク、費用等についてはそちらをご確認ください。

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

※アロケーション・ターゲットイヤー型(2030年以前)カテゴリに関する著作権、知的財産権等一切の権利はMorningstarに帰属し、複製、転載、引用することを禁じます。

08 アロケーション・ターゲットイヤー型(2031年-2040年)

対象ファンド数 当社5ファンド/業界全体49ファンド

カテゴリの運用状況について

- 当カテゴリに属する当社ファンド5本については、要改善ファンドに該当するとの判断には至りませんでした。
- なお、当該ファンドにつきましても、引き続きお客さま本位の姿勢に徹し、確固たる運用哲学とプロダクトガバナンス・ポリシーに基づき、クオリティの高い運用・商品・サービスを安定的かつ継続的に提供出来るよう努めてまいります。(個別ファンドの運用状況については当社ホームページ内の各ファンドページをご覧ください)

カテゴリの平均リターンと平均コスト

リターン(%)				コスト(%)
過去1年	過去3年(年率)	過去5年(年率)	過去10年(年率)	
7.2	9.2	7.9	5.7	0.70

出所: Morningstar Directのデータを基に三菱UFJアセットマネジメントが作成

※業界全体の公募投資信託およびETFの中で、当該カテゴリに属するファンドより単純平均値を算出しております。

※コストは、直近の決算時の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税除く)より算出した総経費率を使用しております。ただし、初回決算を迎えていない等の理由から総経費率のデータがないファンドは、信託報酬率を使用しております。

カテゴリの定義

将来の退職日や資金使用日など、将来の特定期日(このカテゴリは2031年から2040年)をターゲットに運用している投資家のために、株式、REIT、債券、短期金融資産など様々な資産クラスに分散投資を行う。このカテゴリは、事前に設定した将来の目標期日に合わせて、ポートフォリオの最適なリターンとリスクの水準を投資家に提供することを目指す。時間が経過し、目標期日に近づくにつれて、より保守的な資産配分に変更される。

当社ファンド一覧

◇インデックスファンド

No.	ファンド名(アルファベット順および五十音順)	設定日	純資産総額(億円)	要改善ファンド	当社HP
1	eMAXIS マイマネージャー 1970s	2017/10/02	1	—	■

◇アクティブファンド(インデックスファンド以外のファンド)

No.	ファンド名(アルファベット順および五十音順)	設定日	純資産総額(億円)	要改善ファンド	当社HP
1	三菱UFJ <DC>ターゲット・イヤー ファンド 2040	2001/11/14	4	—	■
2	三菱UFJ ターゲット・イヤー・ファンド2035(確定拠出年金)(愛称:あすへのそなえ)	2017/12/11	181	—	■
3	三菱UFJ ターゲット・イヤーファンド 2040	2000/02/08	0.4	—	■
4	三菱UFJ ターゲット・イヤー・ファンド2040(確定拠出年金)(愛称:あすへのそなえ)	2015/12/18	191	—	■

※当社ホームページの個別ファンドページ内に、各ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)および、リスクと費用に関する記載箇所へのリンクがございます。各ファンドの商品性、投資リスク、費用等についてはそちらをご確認ください。

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

※アロケーション・ターゲットイヤー型(2031年-2040年)カテゴリに関する著作権、知的財産権等一切の権利はMorningstarに帰属し、複製、転載、引用することを禁じます。

09 アロケーション・ターゲットイヤー型 (2041年-2050年)

対象ファンド数 当社3ファンド/業界全体40ファンド

カテゴリの運用状況について

- 当カテゴリに属する当社ファンド3本については、要改善ファンドに該当するとの判断には至りませんでした。
- なお、当該ファンドにつきましても、引き続きお客さま本位の姿勢に徹し、確固たる運用哲学とプロダクトガバナンス・ポリシーに基づき、クオリティの高い運用・商品・サービスを安定的かつ継続的に提供出来るよう努めてまいります。(個別ファンドの運用状況については当社ホームページ内の各ファンドページをご覧ください)

カテゴリの平均リターンと平均コスト

リターン(%)				コスト(%)
過去1年	過去3年(年率)	過去5年(年率)	過去10年(年率)	
11.1	13.1	11.2	7.8	0.61

出所: Morningstar Directのデータを基に三菱UFJアセットマネジメントが作成

※業界全体の公募投資信託およびETFの中で、当該カテゴリに属するファンドより単純平均値を算出しております。

※コストは、直近の決算時の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税除く)より算出した総経費率を使用しております。ただし、初回決算を迎えていない等の理由から総経費率のデータがないファンドは、信託報酬率を使用しております。

カテゴリの定義

将来の退職日や資金使用日など、将来の特定期日(このカテゴリは2041年から2050年)をターゲットに運用している投資家のために、株式、REIT、債券、短期金融資産など様々な資産クラスに分散投資を行う。このカテゴリは、事前に設定した将来の目標期日に合わせて、ポートフォリオの最適なりターンとリスクの水準を投資家に提供することを旨とする。時間が経過し、目標期日に近づくにつれて、より保守的な資産配分に変更される。

当社ファンド一覧

◇インデックスファンド

No.	ファンド名(アルファベット順および五十音順)	設定日	純資産総額(億円)	要改善ファンド	当社HP
1	eMAXIS マイマネージャー 1980s	2017/10/02	1	—	■

◇アクティブファンド(インデックスファンド以外のファンド)

No.	ファンド名(アルファベット順および五十音順)	設定日	純資産総額(億円)	要改善ファンド	当社HP
1	三菱UFJ ターゲット・イヤー・ファンド2045(確定拠出年金)〈愛称:あすへのそなえ〉	2017/12/11	133	—	■
2	三菱UFJ ターゲット・イヤー・ファンド2050(確定拠出年金)〈愛称:あすへのそなえ〉	2015/12/18	133	—	■

※当社ホームページの個別ファンドページ内に、各ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)および、リスクと費用に関する記載箇所へのリンクがございます。各ファンドの商品性、投資リスク、費用等についてはそちらをご確認ください。

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

※アロケーション・ターゲットイヤー型(2041年-2050年)カテゴリに関する著作権、知的財産権等一切の権利はMorningstarに帰属し、複製、転載、引用することを禁じます。

10 アロケーション・ターゲットイヤー型(2051年-2060年)

対象ファンド数 当社3ファンド/業界全体37ファンド

カテゴリの運用状況について

- 当カテゴリに属する当社ファンド3本については、要改善ファンドに該当するとの判断には至りませんでした。
- なお、当該ファンドにつきましても、引き続きお客さま本位の姿勢に徹し、確固たる運用哲学とプロダクトガバナンス・ポリシーに基づき、クオリティの高い運用・商品・サービスを安定的かつ継続的に提供出来るよう努めてまいります。(個別ファンドの運用状況については当社ホームページ内の各ファンドページをご覧ください)

カテゴリの平均リターンと平均コスト

リターン(%)				コスト(%)
過去1年	過去3年(年率)	過去5年(年率)	過去10年(年率)	
13.4	15.5	13.2	6.7	0.56

出所: Morningstar Directのデータを基に三菱UFJアセットマネジメントが作成

※業界全体の公募投資信託およびETFの中で、当該カテゴリに属するファンドより単純平均値を算出しております。

※コストは、直近の決算時の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税除く)より算出した総経費率を使用しております。ただし、初回決算を迎えていない等の理由から総経費率のデータがないファンドは、信託報酬率を使用しております。

カテゴリの定義

将来の退職日や資金使用日など、将来の特定期日(このカテゴリは2051年から2060年)をターゲットに運用している投資家のために、株式、REIT、債券、短期金融資産など様々な資産クラスに分散投資を行う。このカテゴリは、事前に設定した将来の目標期日に合わせて、ポートフォリオの最適なりターンとリスクの水準を投資家に提供することを旨とする。時間が経過し、目標期日に近づくにつれて、より保守的な資産配分に変更される。

当社ファンド一覧

◇インデックスファンド

No.	ファンド名(アルファベット順および五十音順)	設定日	純資産総額(億円)	要改善ファンド	当社HP
1	eMAXIS マイマネージャー 1990s	2017/10/02	2	—	■

◇アクティブファンド(インデックスファンド以外のファンド)

No.	ファンド名(アルファベット順および五十音順)	設定日	純資産総額(億円)	要改善ファンド	当社HP
1	三菱UFJ ターゲット・イヤー・ファンド2055(確定拠出年金)(愛称:あすへのそなえ)	2017/12/11	79	—	■
2	三菱UFJ ターゲット・イヤー・ファンド2060(確定拠出年金)(愛称:あすへのそなえ)	2018/12/11	72	—	■

※当社ホームページの個別ファンドページ内に、各ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)および、リスクと費用に関する記載箇所へのリンクがございます。各ファンドの商品性、投資リスク、費用等についてはそちらをご確認ください。

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

※アロケーション・ターゲットイヤー型(2051年-2060年)カテゴリに関する著作権、知的財産権等一切の権利はMorningstarに帰属し、複製、転載、引用することを禁じます。

11 アロケーション・ターゲットイヤー型 (2061年以降)

対象ファンド数 当社2ファンド/業界全体31ファンド

カテゴリの運用状況について

- 当カテゴリに属する当社ファンド2本については、要改善ファンドに該当するとの判断には至りませんでした。
- なお、当該ファンドにつきましても、引き続きお客さま本位の姿勢に徹し、確固たる運用哲学とプロダクトガバナンス・ポリシーに基づき、クオリティの高い運用・商品・サービスを安定的かつ継続的に提供出来るよう努めてまいります。(個別ファンドの運用状況については当社ホームページ内の各ファンドページをご覧ください)

カテゴリの平均リターンと平均コスト

リターン(%)				コスト(%)
過去1年	過去3年(年率)	過去5年(年率)	過去10年(年率)	
13.9	16.4	12.7	—	0.50

出所: Morningstar Directのデータを基に三菱UFJアセットマネジメントが作成

※業界全体の公募投資信託およびETFの中で、当該カテゴリに属するファンドより単純平均値を算出しております。

※コストは、直近の決算時の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税除く)より算出した総経費率を使用しております。ただし、初回決算を迎えていない等の理由から総経費率のデータがないファンドは、信託報酬率を使用しております。

カテゴリの定義

将来の退職日や資金使用日など、将来の特定期日(このカテゴリは2061年以降)をターゲットに運用している投資家のために、株式、REIT、債券、短期金融資産など様々な資産クラスに分散投資を行う。このカテゴリは、事前に設定した将来の目標期日に合わせて、ポートフォリオの最適なリターンとリスクの水準を投資家に提供することを目指す。時間が経過し、目標期日に近づくにつれて、より保守的な資産配分に変更される。

当社ファンド一覧

◇インデックスファンド

当カテゴリに属する当社ファンドは該当なし

◇アクティブファンド(インデックスファンド以外のファンド)

No.	ファンド名(アルファベット順および五十音順)	設定日	純資産総額(億円)	要改善ファンド	当社HP
1	三菱UFJ ターゲット・イヤー・ファンド2065(確定拠出年金)(愛称:あすへのそなえ)	2020/09/30	38	—	■
2	三菱UFJ ターゲット・イヤー・ファンド2070(確定拠出年金)(愛称:あすへのそなえ)	2023/08/21	4	—	■

※当社ホームページの個別ファンドページ内に、各ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)および、リスクと費用に関する記載箇所へのリンクがございます。各ファンドの商品性、投資リスク、費用等についてはそちらをご確認ください。

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

※アロケーション・ターゲットイヤー型(2061年以降)カテゴリに関する著作権、知的財産権等一切の権利はMorningstarに帰属し、複製、転載、引用することを禁じます。

12 コモディティ

対象ファンド数 当社2ファンド／業界全体54ファンド

カテゴリの運用状況について

- 当カテゴリに属する当社ファンド2本については、要改善ファンドに該当するとの判断には至りませんでした。
- なお、当該ファンドにつきましても、引き続きお客さま本位の姿勢に徹し、確固たる運用哲学とプロダクトガバナンス・ポリシーに基づき、クオリティの高い運用・商品・サービスを安定的かつ継続的に提供出来るよう努めてまいります。
(個別ファンドの運用状況については当社ホームページ内の各ファンドページをご覧ください)

カテゴリの平均リターンと平均コスト

リターン(%)				コスト(%)
過去1年	過去3年(年率)	過去5年(年率)	過去10年(年率)	
32.4	17.5	18.3	7.6	0.68

出所: Morningstar Directのデータを基に三菱UFJアセットマネジメントが作成

※業界全体の公募投資信託およびETFの中で、当該カテゴリに属するファンドより単純平均値を算出しております。

※コストは、直近の決算時の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税除く)より算出した総経費率を使用しております。ただし、初回決算を迎えていない等の理由から総経費率のデータがないファンドは、信託報酬率を使用しております。

カテゴリの定義

エネルギー、農産物、工業用金属、天然資源、貴金属など幅広い商品へのエクスポージャーを持つ金融派生商品を主な投資対象とする。このカテゴリに分類されるファンドの中には、レバレッジやインバース型のファンドが含まれ、また商品関連株式も含まれることがある。なお、幅広い商品関連株式に投資をするファンドは、特定株式型に分類される。

当社ファンド一覧

◇インデックスファンド

No.	ファンド名(アルファベット順および五十音順)	設定日	純資産総額(億円)	要改善ファンド	当社HP
1	eMAXISプラス コモディティインデックス	2015/06/18	117	—	■

◇アクティブファンド(インデックスファンド以外のファンド)

No.	ファンド名(アルファベット順および五十音順)	設定日	純資産総額(億円)	要改善ファンド	当社HP
1	三菱UFJ 純金ファンド(愛称:ファインゴールド)	2011/02/07	6,424	—	■

※当社ホームページの個別ファンドページ内に、各ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)および、リスクと費用に関する記載箇所へのリンクがございます。各ファンドの商品性、投資リスク、費用等についてはそちらをご確認ください。

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

※コモディティカテゴリに関する著作権、知的財産権等一切の権利はMorningstarに帰属し、複製、転載、引用することを禁じます。

13 オルタナティブ・ロングショート型

対象ファンド数 当社2ファンド/業界全体29ファンド

カテゴリの運用状況について

- 当カテゴリに属する当社ファンド2本のうち、競合他社比劣後しているファンドについて、パフォーマンスの要因やコスト対比リターン、商品性など多角的な分析を行った結果、要改善ファンドに該当すると判断したファンド1本について次ページ以降で詳細をご報告いたします。
- なお、その他(要改善ファンド以外)のファンドにつきましても、引き続きお客さま本位の姿勢に徹し、確固たる運用哲学とプロダクトガバナンス・ポリシーに基づき、クオリティの高い運用・商品・サービスを安定的かつ継続的に提供出来るよう努めてまいります。(個別ファンドの運用状況については当社ホームページ内の各ファンドページをご覧ください)

カテゴリの平均リターンと平均コスト

リターン(%)				コスト(%)
過去1年	過去3年(年率)	過去5年(年率)	過去10年(年率)	
2.1	0.5	3.0	2.7	2.45

出所: Morningstar Directのデータを基に三菱UFJアセットマネジメントが作成

※業界全体の公募投資信託およびETFの中で、当該カテゴリに属するファンドより単純平均値を算出しております。

※コストは、直近の決算時の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税除く)より算出した総経費率を使用しております。ただし、初回決算を迎えていない等の理由から総経費率のデータがないファンドは、信託報酬率を使用しております。

カテゴリの定義

株式、ETF、その他関連する派生商品を通じて、ロングおよびショートの両建てで大きなポジションを保有する。このカテゴリに分類される一部のファンドは、マクロ経済の見通し、ボトムアップのリサーチから見出した投資機会に応じて、エクスポージャーを変化させるものがある。原則として純資産総額の75%以上が株式もしくは派生商品であり、一般的には世界の株式ベンチマークに対するベータは0.3から0.8程度(期間3年)となる。

当社ファンド一覧

◇インデックスファンド

当カテゴリに属する当社ファンドは該当なし

◇アクティブファンド(インデックスファンド以外のファンド)

No.	ファンド名(アルファベット順および五十音順)	設定日	純資産総額(億円)	要改善ファンド	当社HP
1	A I 日本株式オープン(絶対収益追求型)〈愛称:日本A I〉	2017/02/01	13	●	■
2	日本配当追求株ファンド(価格変動抑制型)〈愛称:はいとう日本〉	2016/10/24	24	—	■

※当社ホームページの個別ファンドページ内に、各ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)および、リスクと費用に関する記載箇所へのリンクがございます。各ファンドの商品性、投資リスク、費用等についてはそちらをご確認ください。

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

※オルタナティブ・ロングショート型カテゴリに関する著作権、知的財産権等一切の権利はMorningstarに帰属し、複製、転載、引用することを禁じます。

個別ファンドごとの改善に向けた取り組み

A | 日本株式オープン (絶対収益追求型)

〈愛称: 日本A |〉

以下URL(当社ホームページ)の個別ファンドページ内に、当該ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)および、リスクと費用に関する記載箇所へのリンクがございます。当該ファンドの商品性、投資リスク、費用等についてはそちらをご確認ください。
<https://www.am.mufg.jp/fund/252629.html>

1 ファンドの概要 (市況動向および資金動向等により、下記の運用方針通りの運用が行えない場合があります。)

- 三菱UFJ信託銀行からAI等を活用した投資助言を受け運用を行います。
- AI等を活用したモデルの開発は三菱UFJ信託銀行及び三菱UFJトラスト投資工学研究所(MTEC)が行います。
- 株式個別銘柄戦略と先物アロケーション戦略の2つを組み合わせることで、絶対収益の追求をめざします。*1 *2
- 各運用戦略で採用するモデルはファンド全体のリスク・リターンに配慮して選定し、モニタリングと必要な見直し等を定期的に行います。

- *1 絶対収益追求とは特定の市場の動向に左右されにくい収益の追求をめざすことをいいます。必ず収益を得られることを意味するものではありません。
- *2 当ファンドにおける株式個別銘柄戦略と先物アロケーション戦略については、投資信託説明書(交付目論見書)に記載している投資リスク「株式個別銘柄戦略と先物アロケーション戦略を用いることによるリスク」等をご参照ください。

2 運用状況の振り返り

- 2025年9月末基準で、設定来のマイナスリターンが継続しています。2つの戦略のうち、先物アロケーション戦略は設定来でプラスの収益を確保しているものの、株式個別銘柄戦略がマイナスリターンとなったことが主な要因です。株式個別銘柄戦略では安定高配当モデル及びニュースピックモデルを採用しておりますが、2017年2月のファンド設定時から2020年頃にかけて高配当株の軟調な相場や、2021年初頭頃からニュースピックモデルによって組み入れた個別銘柄の下落を受けて、同戦略はマイナスリターンとなりました。
- これまで継続的にモデルの改善や入替等を行ってまいりましたが、2024年以降では、先物アロケーション戦略の月次予測モデルや転換点予測モデルにおいて、より株式相場の上昇に対する確信度等を考慮したウエイトへ見直すことで期待リターンを高める改善対応を行いました。2024年9月末からの直近1年間では、株式個別銘柄戦略がマイナスリターンとなったものの、先物アロケーション戦略はプラスリターンを確保したことで+3.8%とカテゴリ平均を上回る投資成果となりましたが、設定来リターンがプラスに転じるには至りませんでした。

3 運用および商品性の改善に向けた取り組み状況

- 設定来、株式個別銘柄戦略、先物アロケーション戦略双方で継続的にモデルの改善、入替等を行うことにより改善効果を得ているものの、設定来リターンがプラスに転じるには至っておりません。
- 一方で、2024年以降に導入した先物戦略での確信度等をより反映したウエイト変更は、直近1年で奏功したと考えており、パフォーマンス改善に寄与していると考えています。
- 引き続き、改善効果のモニタリングおよび投資成果の向上に向けた取り組みを継続してまいります。

パフォーマンスと運用コスト

- 当ファンドは、オルタナティブ・ロングショート型カテゴリに属します。同カテゴリ平均リターンを1年では上回っていますが、その他の期間では下回る状況です。
- コストは、同カテゴリ平均値を下回る水準です。

	設定日	純資産 総額 (億円)	リターン(%)					コスト (%)
			過去1年	過去3年 (年率)	過去5年 (年率)	過去10年 (年率)	設定来 (年率)	
AI日本株式オープン(絶対収益追求型)	2017/02/01	13	3.8	0.3	▲0.2	—	▲1.7	1.32
オルタナティブ・ロングショート型 カテゴリ平均			2.1	0.5	3.0	2.7	2.4	2.45

出所: Morningstar Directのデータを基に三菱UFJアセットマネジメントが作成

※設定来リターンはファンド設定日の前営業日を起点に計算しております。コストは、直近の決算時の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税除く)より算出した総経費率を使用しております。ただし、初回決算を迎えていない等の理由から総経費率のデータがないファンドは、信託報酬率を使用しております。なお、リターンは税金を考慮していません。

※オルタナティブ・ロングショート型カテゴリに関する著作権、知的財産権等一切の権利はMorningstarに帰属し、複製、転載、引用することを禁じます。

※当社では要改善ファンドを特定するためのファンド提供価値の評価要素の一つとして、当社ファンドと同じカテゴリに所属するファンドとのコスト控除後のリターンについて、相対的な順位を確認しております。カテゴリの平均リターンおよび平均コストは相対的な順位のご参考としてお示ししているもので、当ファンドとカテゴリ内の他ファンドとのパフォーマンスの優劣を示したり、当ファンド売買の推奨もしくは勧誘等を目的とするものではありません。

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

14 オルタナティブ・マーケットニュートラル型

対象ファンド数 当社2ファンド/業界全体7ファンド

カテゴリの運用状況について

- 当カテゴリに属する当社ファンド2本については、要改善ファンドに該当するとの判断には至りませんでした。
- なお、当該ファンドにつきましても、引き続きお客さま本位の姿勢に徹し、確固たる運用哲学とプロダクトガバナンス・ポリシーに基づき、クオリティの高い運用・商品・サービスを安定的かつ継続的に提供出来るよう努めてまいります。(個別ファンドの運用状況については当社ホームページ内の各ファンドページをご覧ください)

カテゴリの平均リターンと平均コスト

リターン(%)				コスト(%)
過去1年	過去3年(年率)	過去5年(年率)	過去10年(年率)	
0.3	1.0	2.6	1.5	1.70

出所: Morningstar Directのデータを基に三菱UFJアセットマネジメントが作成

※業界全体の公募投資信託およびETFの中で、当該カテゴリに属するファンドより単純平均値を算出しております。

※コストは、直近の決算時の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税除く)より算出した総経費率を使用しております。ただし、初回決算を迎えていない等の理由から総経費率のデータがないファンドは、信託報酬率を使用しております。

カテゴリの定義

ショートポジションとロングポジションの両方(またはいずれか)で銘柄選択を行いつつ、市場リスク、セクター、時価総額、投資スタイル、通貨、および/または国など投資対象の偏りによって生じるシステムティックリスクの軽減を試みる戦略。ロングポジションをオフセットするようなショートポジションをとることで、これを達成しようとするが、市場リスク要因へのエクスポージャーがわずかに生じる可能性がある。原則として純資産総額の75%以上が株式もしくは派生商品であり、一般的には世界の株式ベンチマークに対するベータは0.3未満(期間3年)となる。

当社ファンド一覧

◇インデックスファンド

No.	ファンド名(アルファベット順および五十音順)	設定日	純資産総額(億円)	要改善ファンド	当社HP
1	MAXIS日本株高配当70マーケットニュートラル上場投信	2017/12/11	83	—	■

◇アクティブファンド(インデックスファンド以外のファンド)

No.	ファンド名(アルファベット順および五十音順)	設定日	純資産総額(億円)	要改善ファンド	当社HP
1	百戦錬磨の名人ファンド	2020/09/23	0.4	—	■

※当社ホームページの個別ファンドページ内に、各ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)および、リスクと費用に関する記載箇所へのリンクがございます。各ファンドの商品性、投資リスク、費用等についてはそちらをご確認ください。

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

※オルタナティブ・マーケットニュートラル型カテゴリに関する著作権、知的財産権等一切の権利はMorningstarに帰属し、複製、転載、引用することを禁じます。

15 オルタナティブ・マルチストラテジー型

対象ファンド数 当社2ファンド／業界全体38ファンド

カテゴリの運用状況について

- 当カテゴリに属する当社ファンド2本については、要改善ファンドに該当するとの判断には至りませんでした。
- なお、当該ファンドにつきましても、引き続きお客さま本位の姿勢に徹し、確固たる運用哲学とプロダクトガバナンス・ポリシーに基づき、クオリティの高い運用・商品・サービスを安定的かつ継続的に提供出来るよう努めてまいります。
(個別ファンドの運用状況については当社ホームページ内の各ファンドページをご覧ください)

カテゴリの平均リターンと平均コスト

リターン(%)				コスト(%)
過去1年	過去3年(年率)	過去5年(年率)	過去10年(年率)	
▲0.6	0.2	0.4	1.4	1.55

出所: Morningstar Directのデータを基に三菱UFJアセットマネジメントが作成

※業界全体の公募投資信託およびETFの中で、当該カテゴリに属するファンドより単純平均値を算出しております。

※コストは、直近の決算時の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税除く)より算出した総経費率を使用しております。ただし、初回決算を迎えていない等の理由から総経費率のデータがないファンドは、信託報酬率を使用しております。

カテゴリの定義

リスク分散のために複数のオルタナティブ投資戦略を組み合わせたシングルマネジャーまたはマルチマネジャーの戦略。原則として純資産総額の30%以上をオルタナティブ戦略で構成されるものとするが、資産の大部分がオルタナティブ戦略で構成されることが多い。このカテゴリに分類されるファンドの中にはオルタナティブ・リスクプレミアム・ファンドも含まれる。一般的には伝統的資産の市場指数に対する感応度は低いもしくは中程度である。

当社ファンド一覧

◇インデックスファンド

当カテゴリに属する当社ファンドは該当なし

◇アクティブファンド(インデックスファンド以外のファンド)

No.	ファンド名(アルファベット順および五十音順)	設定日	純資産総額(億円)	要改善ファンド	当社HP
1	ヘッジファンドセレクション(ラップ向け)	2017/03/27	78	—	■
2	マクロ・トータル・リターン・ファンド	2016/06/21	25	—	■

※当社ホームページの個別ファンドページ内に、各ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)および、リスクと費用に関する記載箇所へのリンクがございます。各ファンドの商品性、投資リスク、費用等についてはそちらをご確認ください。

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

※オルタナティブ・マルチストラテジー型カテゴリに関する著作権、知的財産権等一切の権利はMorningstarに帰属し、複製、転載、引用することを禁じます。

当資料に関するご留意事項等

当資料に関してご留意いただきたい事項

- 当資料は、三菱UFJアセットマネジメントのプロダクトガバナンス活動に関して当社が作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。
- 当資料は勧誘を目的とするものではありません。
- 投資信託をご購入の場合は、販売会社よりお渡しする最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認くださいのうえ、ご自身でご判断ください。販売会社は当社ホームページでご確認いただけます。
- 当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 当資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。
- 投資信託は、預金等や保険契約とは異なり、預金保険機構、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。銀行等の登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の補償の対象ではありません。
- 投資信託は、販売会社がお申込みの取扱いを行い委託会社が運用を行います。
- クローズド期間のある投資信託は、クローズド期間中は換金の請求を受け付けることができませんのでご注意ください。

モーニングスター・カテゴリについて

©2025 Morningstar. All Rights Reserved. ここに含まれる情報は、(1) Morningstarおよび/またはその関連会社またはコンテンツ提供者の専有財産であり、(2) 複製、改作または配布してはならず、(3) 正確性、完全性または適時性を保証するものではなく、(4) 投資、税務、法務あるいはその他を問わず、いかなる助言を構成するものではありません。ユーザーは、この情報の使用が、適用されるすべての法律、規制、および制限に準拠していることを確認する責任を単独で負います。Morningstarおよびそのコンテンツ提供者のいずれも、この情報の使用から生ずるいかなる損害または損失についても責任を負いません。過去の実績は将来の結果を保証するものではありません。

設定・運用

三菱UFJアセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第404号

加入協会／一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会

三菱UFJアセットマネジメントのお問い合わせ先

お客さま専用フリーダイヤル **0120-151034** ホームページアドレス <https://www.am.mufg.jp/>
(受付時間／営業日の9:00～17:00)